

取扱説明書

QTシリーズ



従来およびSDI 監視デジタルレコーダー

Q-See製品をご購入いただきありがとうございます!

本社のすべての製品は購入日から12ヶ月間すべての機器を保護するサービス保証(条件付)の対象となっております。さらに、当社製品には購入日から30日間すべての製造不具合を対象とする無料交換保証が適用されます。ソフトウェアにはwww.Q-See.comから無期限更新サービスをご利用いただけます。

保証を最大限に活用できるよう、オンライン登録を行ってください。保証や技術サポートという特典以外にも、製品の最新情報や、監視デジタルレコーダー(DVR)のために無料でダウンロード可能なファームウェアの更新プログラムについてのお知らせをお送りします。
<http://www.Q-See.com/>から今すぐ会員登録を行ってください。

保証外については本取扱説明書の背面を参照してください。



© 2010-2013 Q-See. 許可がない限り本書の全てまたは一部の無断複製は禁止されています。書面による許可がない限り、本書および本書に記載されているソフトウェアやハードウェアの全ておよび一部を機械より無断に抽出、再現または翻訳は一切禁じます。

商標: すべてのブランド名および製品はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Q-SeeはDPSI, Inc.の登録商標です。

免責事項: 本書内の文書は予告なしに変更される可能性があります。メーカーには、明示的または黙示的いずれにおいても、内容のいかなる完全性について保証をするものではありません。メーカーは本製品の不正使用によるいかなる損害に対して、一切の責任を負いません。

本取扱説明書について

本取扱説明書は従来のQTシリーズやSDI監視デジタルレコーダー(DVR)用です。すべてのモデルで全機能が使用できるわけではありません。したがって、本書に記載されている機能がご購入いただいたモデルに該当しない場合や、利用できない可能性があります。さらに、画面の画像がお使いの機器の表示と異なる場合もあります。

本取扱説明書は作成時点においては最新のものですが、製品の継続的な改善という努力の過程において、取扱説明書に特徴や機能が追加または変更、画面表示が予告無く変更される可能性があります。当社のウェブサイト(Q-See.com)へアクセスして最新のファームウェア更新プログラム、ならびに製品に関するお知らせをご確認ください。

本取扱説明書内において、お客様の新しいシステムを安全かつ問題のない状態で操作できるよう、警告やその他の重要情報を強調しています。すべての説明を熟読し、説明に従いながら、以下の警告に注意を払ってください:



重要! 赤枠にこの記号が表示されている場合は、警告を表します。お客様の安全や製品への損傷を防ぐため、使用前にすべての警告文をお読みください。



注意! 青枠内に情報マークと共に記載された文章は、システムを最大限に活用するための追加案内や説明をご提供します。

目次	
はじめに	7
安全上のご注意	7
特徴	8
接続と操作	10
2.1 監視デジタルレコーダーの機能と接続	10
QT578	10
2.2 マウス	12
2.3 リモコン	13
2.4 ビデオディスプレイ	16
ビデオディスプレイを接続する	16
メニューが表示されない	17
マルチモニターおよびスポットアウト	17
2.5 カメラを接続する	18
基本機能	19
3.1 電源オン/オフ	19
電源オンとログイン	19
電源オフ	19
3.2 コントロールバー	20
3.3 ライブ視聴と録画	23
ビデオ出力の切り替え	23
ライブ視聴	23
録画	23
3.4 クイック再生	24
メインメニューの設定	27
4.1 基本設定	27
メニューナビゲーション	27
設定	27
4.2 ライブ設定	30
4.3 録画の設定	32
4.4 スケジュールの設定	35
4.5 ネットワークの設定	36
4.6 ユーザー管理	40
ユーザーアカウントとパスワード	40
[時間検索]	42
[イベント検索]	43
[ファイル管理]	43
[画像]	44
バックアップ	45
USBメモリーをFAT32形式でフォーマットする	45
ファイルをバックアップする	45
パソコンで動画ファイルを再生する	46
重要な考慮事項	46
監視デジタルレコーダー管理	47
6.1 情報	47
イベント情報	48
ログ情報	48
ネットワーク情報	48
オンラインユーザー情報	49
6.2 手動警報	50
6.3 ディスク管理	50
6.4 アップデート	51
6.5 ログオフ	52
6.6 シャットダウン	52
PAN/TILT/ZOOM (パン/チルト/ズームカメラ)	53
7.1 PTZカメラを接続する	53
7.2 パン/チルト/ズーム (PTZ) 設定	54
アラーム	57
8.1 警報入力	57
8.2 警報出力	59
8.3 警報の背低	60
[センサー]	60
動作	61
映像信号未入力	62
その他の警報	62
警報出力	63
ハードディスク	64
9.1 設置/取り外し	64
9.2 ハードディスクの録画容量を計算する	66
付属資料	67
A.1 故障かな?と思ったら	67
A.2 仕様	71
Q-SEE製品保証	72

安全上のご注意

お使いのQ-See製品の損傷やお客様自身、または他者への安全を考慮し、本機器を設置または使用する前に、以下の安全に関する注意事項をすべてお読みになり、理解するようにしてください。安全に関する注意事項は製品の利用者が手に取ることができる場所に保管してください。



警告! 感電注意!



- 商品を開けましたらすぐに箱内に含まれる装置および付属品を確認してください。不足している部品や損傷している部品を見つけた場合、再梱包して本製品を購入した店舗へ返品してください。
- 適切な電源を使用してください。本体に付属されている電源または、指定された電圧(100～240V AC)以外の電源を使用しないでください。
- 監視デジタルレコーダー(DVR)に金属を挿入しないでください。本体または本体のケースに異物を挿入すると、感電の原因となります。
- ホコリの多い場所では開かないでください。本体をホコリの多い場所に設置しないでください。
- 本製品を雨がかかる場所や水分の多い場所には置かないでください。誤って製品が濡れてしまった場合は、電源コードを抜き、ただちにQ-Seeにご連絡ください。
- 製品の表面は清潔かつ乾燥した状態に保ってください。本体の外装を清掃するには、少量の水分を含ませた布で軽く拭き取ってください(水のみを使用し、溶剤は使用しないでください)。
- 本体のカバーがしっかりと装着されていない場合は、本監視デジタルレコーダーの操作は行わないでください。本体をご自身で修理しないでください。本体から異音や異臭がする場合は、電源コードを抜き、ただちにQ-See技術サポートにご連絡ください。いかなる状況においても、機器が電源に接続されている間はカバーを取り外さないでください。ハードディスクを設置/交換する(第9章を参照)またはマザーボードの標準3Vリチウムバッテリーを交換する場合のみカバーを外すようにしてください。ユーザー側で作業可能な部品はこの2つのみです。停電後に内部クロックがリセットされた場合、バッテリーを交換する必要があります。
- 監視デジタルレコーダーは慎重に扱ってください。誤って本体を地面などに落としてしまった場合、不具合が発生する可能性があります。物理的な損傷によって本機器が正常に作動しない場合、公認の代理店に修理または交換についてお問い合わせください。
- 装置の周囲の空気が適切に循環していることを確認してください。本監視デジタルレコーダーは映像の保存にハードディスクを使用しているため、運転時に熱が発生します。本体の底部、上部、側面、および背面の空気穴を塞がないでください。これらの穴は運転中にシステムを冷却するためのものです。空気循環が十分な場所に本製品を設置または配置してください。
- 適切な換気を行ってください。監視デジタルレコーダーには本体の換気を適切に行う内蔵ファンが搭載されています。このファンは覆わないでください。

特徴

本監視デジタルレコーダーは、高画質録画と使いやすさを実現するため、高性能処理が可能なビデオチップと組み込み型Linuxオペレーティングシステムを使用しています。業界標準H.264圧縮機能を含む最新テクノロジーを使用し、高品質でスムーズな映像と遠隔視聴用のデュアルストリーム機能がご利用できます。さらに、アップグレード可能なSATAハードディスクインターフェイスを搭載。また、VGA出力により、VGA入力を搭載したテレビやモニターに接続し、映像を視聴することができます。

本体を操作するにはマウス、GUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェイス)またはリモコンを使用出来ます。また、利用者はウェブブラウザやモバイル端末からシステムの遠隔操作・監視を行うこともできます。

本監視デジタルレコーダーは高い安定性と信頼性を誇る最新の技術を使用しており、ご家庭や倉庫、工場、店舗などに最適です。

圧縮形式

低画質と高画質が選択可能な標準H.264圧縮形式

ライブ監視

VGA出力対応

セキュリティ向上のため、指定されたカメラのライブ映像を非表示に出来ます

現在の録画状態と基本情報を表示

USBマウス対応で完全な操作性

ライブ映像および録画映像再生の視聴時にデジタルズーム対応

記録媒体

最大録画時間を実現するため、それぞれ最大2TBのSATAハードディスクをサポート

バックアップ

USB 2.0デバイスのバックアップが可能

一部のモデルはeSATA外付けハードディスクに対応

インターネット経由で録画した映像をAVI形式で離れたパソコンに保存

録画と再生

録画モード：手動、予約、動作検知および警報・感知録画

ハードディスクの容量が最大に達した場合、自動上書き機能

映像画質、解像度、フレーム率など調節可能

128MB分パッケージング化

一部のモデルでは、最大16の音声チャンネルが利用可能

2つの録画検索モード：時間検索とイベント検索

マルチスクリーンでの同時再生が可能

録画したファイルの削除または保存指定が可能

LAN(ローカルエリアネットワーク)またはインターネット経由からネットワーク

クライアントを使用し遠隔再生が可能

CIFおよびD1解像度での録画をサポート。

警報

一部のモデルでは、1~4チャンネル出力と最大16のチャンネルへの警報入力を利用可能

動作検知およびセンサーでの録画予約が可能

録画の前後に対しての動画処理をサポート

動作検知またはアラーム設定から指定したチャンネルへの録画をサポート

PTZのプリセットまたは、自動巡航をサポート

PTZ操作

複数のPTZプロトコル(PelcoP、PelcoD、LILIN、MINKING、NEON、STAR、VIDO、DSCP、VISCA、およびRANGEに対応)

128個のPTZのプリセットおよび8種類の自動巡航に対応

インターネット経由でPTZの遠隔操作が可能

セキュリティ

ユーザー権限のカスタマイズ：ログ検索、システム設定、送受信音声、ファイル管理、ディスク管理、遠隔ログイン、ライブ視聴、手動録画、再生、PTZ操作および遠隔ライブ視聴

管理者(1名)と最大15人のユーザー操作が可能

イベントの記録と確認が可能、イベント指定は無制限

ネットワーク

TCP/IP、DHCP、PPPoE、DDNSに対応

Internet ExplorerまたはSafariブラウザからの遠隔表示が可能

同時接続、最大18人まで対応

デュアルストリームに対応。インターネットの帯域幅と環境により、インターネット経由の視聴に対し、接続速度を調整可能

遠隔ライブ視聴で映像のスナップ保存と色の調節をサポート

遠隔からの時間およびイベント検索、各チャンネルの再生をサポート

PTZの遠隔操作、プリセットおよび自動巡航に対応

遠隔からメニューを全設定、並びに監視デジタルレコーダーの全パラメータを変更可能

モバイル端末：Win Mobile Pro、Win 7 Mobile、Symbian、iPhone、iPad、アンドロイド、および3GネットワークBlackberryを使用し、3Gネットワーク上でのモバイル監視をサポート

インターネット経由で複数のデバイスを管理するCMSをサポート

管理者は他ユーザーを特定のカメラへのユーザーのアクセスを制限できます

管理者はインターネット経由で接続しているユーザーを切断できます



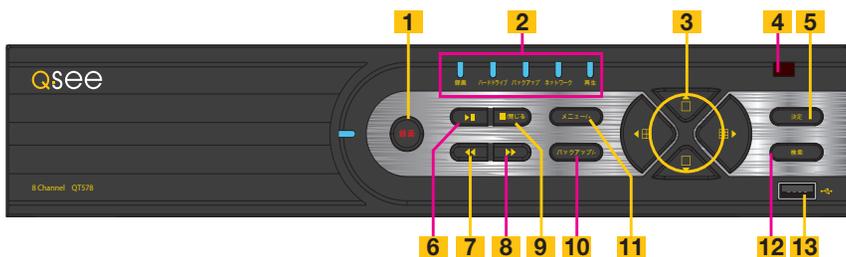
注意! 店舗により、監視デジタルレコーダーにハードディスクが購入時に搭載されている可能性があります。ハードディスクが同梱されておらず設置したい場合、または3TBのハードディスクへアップグレードしたい場合は、本取扱説明書の第9章を参照してください。

本監視デジタルレコーダーの使用するには483mm以上の標準VGAモニターまたはテレビを使用してください。VGAモニターには背面パネルにあるVGAポートを、テレビには背面にあるBNCコネクタの「ビデオ出力」ポートを使用します。本体はVGAポートが使用されるよう初期設定されています。テレビを使用するには、[停止/ESC]、[終了]または[VGA/TV] ボタン（モデルにより一部異なる場合があります）を10秒間押し、ビデオ入力モードが変更されたことを知らせるピープ音が鳴るまで押し続けます。なお、他のポートに接続されているディスプレイを間違っているビデオ入力モードで視聴している場合はメニューが表示されません。

2.1 監視デジタルレコーダーの機能と接続

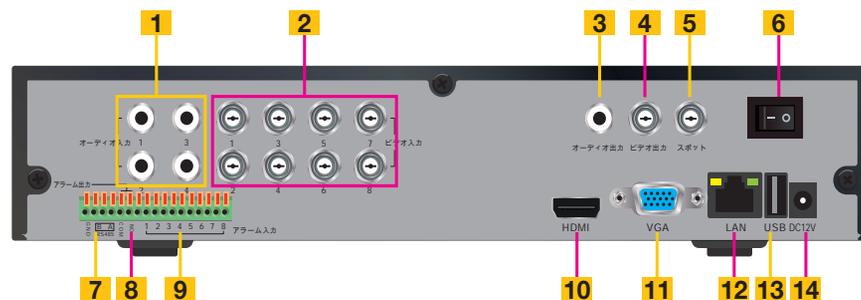
QT578

前面パネル



番号	名前	機能
1	録画	手動で録画を開始します
2	LED 表示器	電源、HDD、録画などの状態を表します。
3	上下左右/ マルチスクリーン	1. 画面オプションを移動します。 2. 画面表示モード(1/4/9チャンネル)を変更します。
4	赤外線受光部	リモコンから信号を受信します。
5	決定	選択を確認します。
6	再生/一時停止	[再生] ウィンドウを開きます。 映像を再生/一時停止します。
7	巻戻し	映像を逆方向に戻します。
8	早送り	再生速度を変更します。
9	停止/終了	再生モードの終了/現在のウィンドウまたは状態を終了します。 映像の出力モードを切り替えます。(10秒間長押しします)
10	バックアップ/-	ライブ映像の [セットアップ/Enter] バックアップモードの値を減らします。
11	メニュー/+	ライブ映像の [セットアップ/Enter] バックアップモードの値を増やします。
12	検索	検索モードに入ります。
13	USBポート	USBフラッシュまたは外部ハードドライブに接続し、ファームウェアを更新や録画内容をバックアップするためのUSBポートです。

背面パネル



番号	名前	機能
1	オーディオ入力	音声を搭載したカメラ用の4チャンネル・オーディオ入力端子です。
2	ビデオ入力	最大8台のカメラからのビデオ入力端子です。
3	オーディオ出力	オーディオ出力用の端子で、アンプスピーカーに接続します。
4	CVBS (ビデオ出力)	TV (BNC) またはモニターへの接続用ビデオ出力端子です。
5	スポット	補助出力チャンネル用として別のモニターを接続します。このモニターには映像のみが表示され、メニューを表示することはできません。
6	電源スイッチ	監視デジタルレコーダーの電源を入れたり、GUIから電源を切った後に電源をオフにするために使用します。
7	PTZ	PTZカメラ接続用ポートです。
8	警報出力	アラーム用出力端子です。
9	警報入力	最大8台の外部センサーに接続します。
10	HDMI出力	HDMIビデオ出力端子です。
11	VGAポート	モニターへの接続用ビデオ出力端子です。
12	LANポート	ネットワーク(イーサネット)ポートです。
13	USBポート	USBマウスに接続します。
14	DC +12V	電源入力端子です。

監視デジタルレコーダー前面のボタン以外に、USBマウスやリモコンで本体を操作することもできます。本章では、USBマウスから本本体を操作する方法についてご説明します。

2.2 マウス

本ソフトは、メニューの操作にマウスを使用するように初期設定がされています。本機能の具体的な使用方法については、本取扱説明書内の別項目にて記載していますが、基本的な操作は以下のとおりです。

ライブ視聴で:

分割カメラモード作動中の映像画面をマウスでダブルクリックをすると、任意のカメラ映像が全画面モードで表示されます。

もう一度ダブルクリックすると分割画面モードに戻ります。

右クリックで画面下のコントロールバーが表示されます。

もう一度右クリックするとコントロールバーが非表示になります。

設定で:

選択には左クリックを使用します。設定をキャンセル、または前の画面に戻りには、右クリックを使用します。



図2-1

値を入力するには:

マウスカーソルを空白の入力欄に移動させてからクリックしてください。数字、文字、および記号に対応する仮想キーボードが画面上に表示されます。大文字や記号を入力するには画面上の仮想キーボード内のシフトキーを押してください。

時間設定などの特定の値は、マウスのホイールから変更を行うことができます。



図2-2

2.3 リモコン

リモコンを使用すると、遠距離から多様な機能を操作することができます。また、リモコンには通常機能の他、メニューや操作機能を追加するボタンとしてもご使用できます。本体の操作はマウスで行い、リモコンでライブ視聴やファイル検索、再生などを行うことをお勧めします。

モデルは2つあります。いずれも単4電池を2本使用します。リモコンの性能が低下した場合は電池残量の確認、または本体の赤外線受信が遮られていないかをご確認ください。

図については、次ページを参照してください。

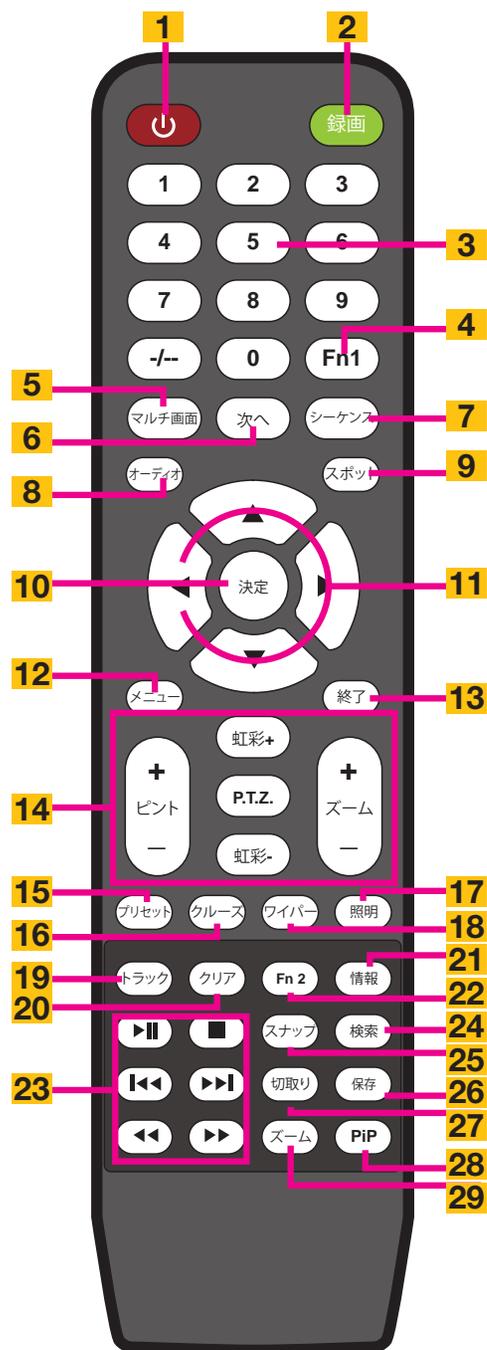


図2-3

番号	ボタン	機能
1	電源	ソフト電源オフスイッチ。監視デジタルレコーダーから電源コードを抜く前にこのボタンを使用します。
2	録画	録画を開始します。
3	数字	フィールドに数を入力したりカメラを選択したりします。
4	Fn1	機能は割り当てられていません。
5	マルチスクリーン	マルチスクリーンの表示モードを選択します。
6	次へ	次のライブ映像グループに切り替えます。
7	SEQ	同時チャンネル表示に切り替えます。
8	音声	ライブ映像モードでの音声入力を有効にします。
9	スポット	ビデオ表示モードを変更します。
10	決定	選択を確認します。
11	上下左右コントロール	カーソルを移動します。 PTZモードではPTZの方向をコントロールします。
12	メニュー	メインメニューを開きます。
13	終了	メニューまたはインターフェイスを終了します。
14	PTZコントロール	ズーム、ピント、絞り、速度などのPTZのコントロールに使用します。
15	プリセット	PTZプリセット設定を開きます。
16	クルーズ	PTZクルーズ設定を開きます。
17	照明	PTZカメラのライトをオンにします。
18	ワイパー	PTZカメラのワイパーをオンにします。
19	トラック	PTZトラック設定を開きます。
20	クリア	前に操作していたメニュー/インターフェイスに戻ります。
21	情報	監視デジタルレコーダー情報メニューを開きます。
22	Fn2	機能は割り当てられていません。
23	再生コントロール	再生/一時停止、停止、早送り、巻戻し、1フレーム進む/戻る
24	検索	ビデオ検索ウィンドウを開きます。
25	スナップ	アクティブなライブビューウィンドウの静止画像のスナップショットを開きます。
26	バックアップ	[バックアップ]メニューを開きます。
27	切り取り	開始/終了点を選択し、再生中のビデオからより短いビデオの分節を作成します。
28	PIP	ピクチャー・イン・ピクチャー・モード
29	ズーム	デジタルズームを有効化します。

PTZボタンを押して、PTZコントロールパネルへ入ります。チャンネルを選択し、PTZを押してパネルを閉じます。ワイパーおよびライト機能は、PTZカメラにこれらの機能が搭載されている場合のみ使用できます。

2.4 ビデオディスプレイ

QTシリーズ・監視デジタルレコーダーでは、主ビデオディスプレイとしてテレビまたは19インチ以上のモニターが使用できます。特定のモデルではHDTVなどの高解像度ディスプレイを使用することが可能です。モバイル機器やパソコンを使用して遠隔監視のみを行う場合、ビデオディスプレイがなくても本体の通常使用は可能ですが、初期設定の際には必要となります。なお、現時点において、QTビューモバイルアプリから本体の設定を変更することはできません。また、一部の設定はパソコンの遠隔監視・ソフトウェアで変更することはできません。

ビデオディスプレイを接続する

お持ちのビデオディスプレイへの接続方法は、監視デジタルレコーダーに付属している「クイック・スタート」にも記載されていますが、本章でもご説明します。

VGAモニター

ほとんどのコンピュータで使用されている標準VGAモニターの使用を推奨します。監視デジタルレコーダーはVGAモニターの使用を前提に設計されています。解像度の制約上、19インチ以上のデジタルディスプレイモニターを使用してください。ご使用のモニターの性能情報は、一般的にモニターの背面に記載されていますので、そちらをご確認ください。

- ステップ1.** VGAケーブルを監視デジタル本体の背面にある「VGA」ポートの差込口に接続してください。
- ステップ2.** VGAケーブルの反対端をモニターの背面にある同様のポート差込口に挿入してください。
- ステップ3.** モニターの電源コードをサージ・プロテクタ(耐雷変圧器)に挿入してください。



図2-4

高解像度テレビ

一部のQTシリーズ・監視デジタルレコーダーはHDMIビデオ出力に対応しており、高解像度テレビやHDMIビデオ入力搭載されているディスプレイを使用することができます。

- ステップ1.** HDMIケーブルを本体の背面にある「HDMI」ポート差込口に挿入してください。
- ステップ2.** ケーブルのもう一方の端をテレビの「HDMI」ポート差込口に挿入してください。
- ステップ3.** テレビの電源コードをサージ・プロテクタ(耐雷変圧器)に挿入してください。



図2-5

ディスプレイの解像度を変更する

以下の手順で本体をモニターまたはHDディスプレイの機能に最適となるよう出力を調節することができます。

- ステップ1.** [メインメニュー]にある[セットアップ]ウィンドウの[基本]を開きます(以下を参照)。
- ステップ2.** [システム]タブをクリックしてください

- ステップ3.** [ビデオ出力] プルダウンメニューで使用する解像度を選択してください。
- ステップ4.** [適用]をクリックして設定を保存し、[終了]をクリックしてください。
- ステップ5.** 本体を再起動してください。その後、再度ログインが必要となります。

テレビ

ビデオディスプレイの3つ目のオプションはRCAビデオ入力搭載のテレビです。監視デジタルレコーダーの**ビデオ出力**ポートは同軸ケーブル用BNC(British Naval Connector)という種類の同軸ケーブルを使用します。なお、モデルによっては、BNCケーブルからRCAへの変換ケーブルまたはアダプタが搭載されています。同モデルでは、BNCケーブルの接続口をRCAポート差込口に交換し、既存のRCAケーブルを使用してテレビに接続することができます。テレビをビデオディスプレイとして使用する場合には、以下のステップにしたがって、本体の主出力にRCAを使用するよう設定を行う必要があります。



図2-6

- ステップ1.** BNCケーブルからRCA変換ケーブルを本体背面の「ビデオ出力」ポート差込口に接続してください
- ステップ2.** ケーブルのRCA側をテレビの「ビデオ入力」ポート差込口に挿入してください。
- ステップ3.** テレビの電源コードをサージ・プロテクタ(耐雷変圧器)に挿入してください。
- ステップ4.** 監視デジタルレコーダー前面の[停止]、[停止/終了]、[終了]、[■/ESC]または[VGA/TV](モデルによって異なります)ボタンを10秒間、またはビデオモードが変更されたことを知らせるモデルにより一部異なる場合があります)を10秒間押し、ビデオ入力モードが変更されたことを知らせるピープ音が鳴るまで押し続けます。

メニューが表示されない場合

カメラの配信映像のみが表示され、マウスカーソルやメニューが表示されない場合は、間違ったビデオ入力モードで視聴していることが原因であると考えられます。この場合、上記の「ステップ4」を行うことで、ピープ音の後にカーソルまたはメニューが表示されます。

マルチモニターおよびスポットアウト

一部の監視デジタルレコーダーには背面に[スポット出力] BNC接続子のポート差込口が搭載されています。これにより、本体を2台目のビデオディスプレイに接続し、選択したチャンネルの同時表示が可能です。2台目のディスプレイにはメニューは表示されず、本体の操作を行うことはできません。これについては、本書内「[セクション 4.2 ライブ設定構成](#)」にて詳細に説明しています。一部のユーザーは未使用のビデオディスプレイ出力を試用して複数のディスプレイで映像を表示することが出来ます。(例:VGAポートを主ディスプレイに使用し、BNC接続子のビデオ出力ポートを別のディスプレイに使用)この「追加」ディスプレイには主ディスプレイと同じ映像が表示されますが、メニューやカーソルは表示されず、2台のディスプレイでチャンネルを分割することはできません。

Loop Out(ループアウト)

当社の一部の大型監視デジタルレコーダー(QT518やQT536など)には、「ループアウト」と表示されている1つまたは複数のポートが搭載されています。これらのポート差込口やビデオ信号を分割する、本体付属のドングル(不正利用を防止するためのハードウェアキー)と一緒に使用することで動作し、ユーザーは1つのチャンネルに1台のモニターを接続することができます。この場合、追加モニターにメニューは表示されません。

基本機能

2.5 カメラを接続する

お買い上げいただいた監視デジタルレコーダーは、カメラのビデオケーブルを素早く安全に接続できるよう、BNC (British Naval Connector) 接続子のポート差込口を使用しています。従来のアナログおよびデジタルSDI (シリアル・デジタル・インターフェイス) の高解像度カメラでははこのインターフェイスが使用されていますが、信号の互換性がないため、他種類用のポートには接続することはできません。そのため、必ず正しいポートに接続していることをご確認ください。

ステップ1. BNC接続子とカメラの電源接続口を、正しい電源およびビデオケーブルの接続子に接続してください。

注: 電源の雄接続子は、対応する電源コードに差し込みます。

ステップ2. ケーブルの反対端のBNC接続子を本体の背面のビデオ入力ポート (任意) に接続してください。

ステップ3. 電力分割器 (カメラキットに含まれている場合) の電源コードのいずれかを、電源/ビデオケーブルの電源コードに挿入してください。カメラを1台のみ接続している場合は、電源コードを電源アダプタに接続し、以下のステップ6へお進みください。



図2-7

ステップ4. 適切な接続や機能を確保するため、パッケージ内に含まれている各カメラを接続する場合、上記3つのステップを繰り返してください。

ステップ5. 電力分割器の一方の端を電源アダプタに接続してください。

ステップ6. 電源アダプタをサージ・プロテクタ (耐雷変圧器) に挿入してください。これで、各カメラのライブ配信映像が表示されるようになります。



図2-8

一部の付属カメラには、カメラの電源および電力分割器が複数含まれている場合があります。必要に応じて上記の手順を繰り返し、すべてのカメラの接続を完了させてください。カメラが複数の種類で構成されている場合は、それぞれが適切な電源に接続されていることを確認してください。適切な電源接続を行わない場合、カメラの破損原因や電力不足となります。

これでカメラを取り付ける準備が整いました

3.1 電源オン/オフ

監視デジタルレコーダーの電源を切る前に、すべての接続の状態が正常であることを確認してください。

電源オンとログイン

電源に接続すると監視デジタルレコーダーの電源が入ります。前面の [電源] ランプが点灯し、カメラ1からのライブ映像が表示されます。先へ進む前に、本体にログインする必要があります。

ステップ1. 画面上をマウスで右クリックしてください。

ステップ2. リモコンの [メニュー] ボタンを押すか本体前面の [停止/ESC] ボタンを押すと画面下にコントロールバーが表示されます (図3-3)。

ステップ3. コントロールバーが表示されましたら、一番左のメニューアイコンをクリックすると [メインメニュー] を開きます (図3-2)。

ステップ4. [ログイン] 画面が表示されます。前章に記載されている仮想キーボードを使用し、ユーザー名「admin」とパスワード「123456」をそれぞれ入力してください。キーボードの [ENTER] をクリックしてください。後からパスワードを変更する場合は、「[セクション4.6 ユーザー管理](#)」をご参照ください。



図3-1

これでログインが完了しました。



重要! 監視デジタルレコーダーに初めてログインする際、本体の日付と時刻を正確に設定する必要があります。これにより録画したイベント映像の検索が可能になります。また、後に設定を変更した際、同日、同時刻のファイルが複数作成されることを防ぎます。詳細な説明については、「[セクション4.1:基本設定](#)」をご参照ください。

電源オフ

監視デジタルレコーダーはリモコンの [電源] ボタンを押すか、[メニュー] 画面上の [システム終了] と書かれたアイコンを選択するとスタンバイモードになります。いずれの場合でも、[シャットダウン] を確認する画面が表示され、電源を切る場合は、[OK] を選択して確認できます。シャットダウンを行うと、ハードディスクはスタンバイ状態となり、システムはシャットダウンします。しばらくの間監視デジタルレコーダーを使用しない場合は、サージ・プロテクタ (耐雷変圧器) で電源をオフにするか、本体の電源コードを抜いて監視デジタルレコーダーをコンセントから外しておくことをお勧めします。



図3-2

3.2 コントロールバー

ログイン時、監視デジタルレコーダーの [ESC] ボタンを押すか、画面上でマウスを右クリックすると画面下にコントロールバーが表示されます。



図3-3

コントロールバーの機能は以下のとおりです。画面表示モードについては次のページで、他の機能については後の章でより詳しく説明します。

メニュー: [メインメニュー] を開きます。

画面表示モード: 一度に表示させるカメラのチャンネル数を選択します。カメラが設定されていないチャンネルには「Video Loss (ビデオロス)」と表示されます。各アイコンの右側にある上向きの矢印をクリックすると、そのモードで表示するチャンネルを選択できます。

自動循環: チャンネル間の自動循環を有効/無効にします。

色彩: 任意のチャンネルの輝度、色相、彩度およびコントラストを調節します。

ズーム: 単一画面表示モードで利用可能。デジタル処理でディスプレイの選択部分を拡大します。

音量: 音量を調節します。監視デジタルレコーダーにマイクまたは音声対応カメラを接続している場合にのみ使用できます。

PTZ: オプションのパン・チルト・ズーム (上下左右移動) 制御を開きます。

スナップショット: すべてのチャンネルからの静止画像を取り込み、ハードディスクに保存します。

録画: すべてのチャンネルの手動録画を開始します。

再生: 再生モードに切り替え、再生コントロールバーを表示します。

コントロールバーの移動: クリックすると画面上の好きな場所にコントロールバーを移動させることができます。画面を右クリックするとコントロールバーが非表示になります。

表示モード

コントロールバーの [表示モード] ボタンをクリックすると、カメラの配信動画の表示方法を簡単に設定できます。ここで行った設定は [ライブ] メニューの [メインモニター] で行ったデフォルト設定を一時的に上書きします ([セクション4.2 ライブ設定] を参照)。一度に一つのチャンネルを表示、ピクチャー・イン・ピクチャー形式 (一画面内2つの映像を表示) で2つのチャンネルを表示、または分割画面モードで複数のチャンネルを表示する設定から選択できます。さらに、ユーザーはオプションとして一度に表示するチャンネルの数を選択することやマルチチャンネル表示で表示するチャンネルの数を選択することができます。表示モードオプションの数と構成は監視デジタルレコーダーのモデルによって異なります。一部の8チャンネルシステムで9つのチャンネルの表示が可能なモデルを除き、本体は対応しているチャンネル数より多くのチャンネルを表示することはできません。本体に接続されているカメラの台数が最大数より少ない場合、カメラの接続されていないチャンネルは黒く表示され、「映像信号未入力」メッセージが表示されます。



図3-4

選択したい画面表示モードの横横にある アイコンをクリックして [チャンネル選択] メニューを開きます。

任意またはすべてのチャンネルを確認し、ライブ映像配信 (選択した表示モードと監視デジタルレコーダーのチャンネル数による) を表示できます。 ボックスにチェックを入れて設定を確認し、 ボタンをクリックして [チャンネル選択] メニューを閉じます。



図3-5

選択したいチャンネルの表示をクリックし、画面をそのまま移動させると、カメラの表示を新しい位置へ移動させることができます。チャンネルの表示を別のエリアに移動させると、置き換えられた映像は空いている場所へ移動します。

表示されている任意のチャンネルをダブルクリックすると、そのカメラの映像が全画面で表示されます。画面内の好きな場所をダブルクリックすると表示が前のモードに戻ります。

非対称表示

本シリーズおよびQT536の4チャンネル監視デジタルレコーダーを除き、ユーザーは非対象表示モードでカメラを表示することができます。このモードは1つの大きな画面と複数の小さな画面が表示されます。上記のとおり、マルチチャンネル表示を維持しながら、小さな画面のカメラ映像のいずれかを大きな画面に移動させ、大きく表示させることができます。

ピクチャー・イン・ピクチャーモード

2つのチャンネルのみを監視したい場合、QT536以外のQTシリーズならピクチャー・イン・ピクチャーモード(一画面内で2つの映像を表示)が利用できます。この表示モードのアイコンは図3-4の一番右になります。



図3-6



図3-7

ピクチャー・イン・ピクチャーボタンをクリックするとポップアップ画面(図3-6)が表示され、映像配信を使用する主チャンネルを選択できます。ウィンドウの一番左下のボタンをクリックすると2つめのポップアップウィンドウ(図3-7)が開き、大きな画面で表示するチャンネルを選択できます。大きな画面に表示されているチャンネルは暗く表示され、選択できません。

3.3 ライブ視聴と録画

ビデオ出力の切り替え

「セクション2.4 ビデオディスプレイ」で説明したとおり、監視デジタルレコーダーは通常、背面のVGAポート経由でビデオ信号を19インチ以上のモニターへ出力するよう設定されています。ただし、テレビをビデオ出力ポートに接続している場合は、本体前面の[ESCAPE]、[終了]または[停止]ボタン(モデルにより異なります)を10秒以上押し、ピープ音が鳴るまで押し続ける必要があります。このピープ音はビデオモードが変更されたことを知らせています。QT474では、ビデオモードを変更するには[VGA/TV]ボタンを長押ししてください。

ライブ視聴

監視デジタルレコーダーの標準モードではカメラからのライブ配信映像を表示します。表示するチャンネルの構成、カメラ名称、その他の設定については「セクション4.2」に記載されています。

カメラ映像に加え、本体には各カメラの状態を表す記号が表示されます。



図3-8

録画

記号	意味	記号	意味	記号	意味
	予約録画		警報録画		手動録画
	動作検知		音声有効		

お買い上げになった監視デジタルレコーダーは動作を検出すると録画を開始するように設定されており、最適の状態でも録画するよう設定されています。これらの設定はほとんどの場合、正常に作動しますが、各ユーザーにより設定が異なるため、設定の調節方法については「セクション4.3 録画設定」を参照してください。

3.4 クイック再生

監視デジタルレコーダーまたはリモコンの再生ボタンを押すとクイック再生が起動し、最近録画された映像が再生されます。

コントロールバーの再生ボタンをクリックすると、クイック再生機能が開始されます。



図3-9

クイック再生の範囲は再生ボタンの隣にある上向き矢印アイコンをクリックすることで設定できます。過去2分、5分または10分を選択できます。この設定は、リモコンまたは監視本体の前面パネルにある[再生]ボタンを押すか、またはマウスを使い再生ボタンをクリックすることで適用されます。

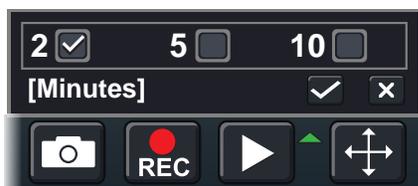


図3-10

映像再生中は、映像録画を行ったチャンネルのみが表示され、他のチャンネルは黒く表示されます。次のページのように、画面下に再生コントロールを示すツールバーが表示されます。マウスをお使いの場合は、ツールバーのアイコンをクリックすることで前面パネルボタンやリモコンと同じように操作できます。

クイック再生開始時点よりも前に録画された映像がある場合は、映像の録画開始時点に戻すことができます。ただし、他の日やそれ以外の時間に録画されたイベント映像を検索するには、「**セクション4.8**」の説明をお読みいただく必要があります。

再生コントロールバー

従来の監視デジタルレコーダーや他の映像の再生モードと同じ方法で操作できますが、本製品では以下の追加コマンドが使用できます。

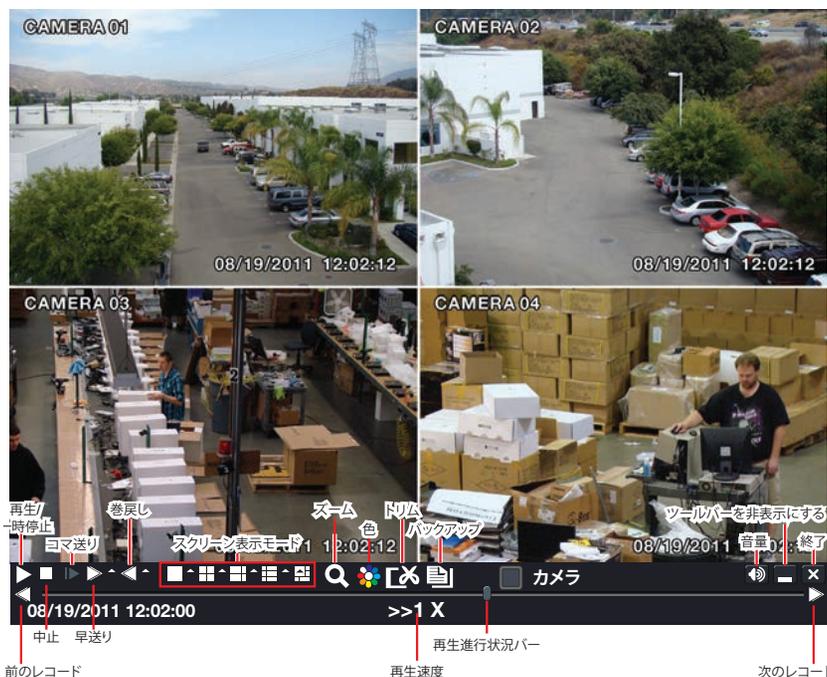


図3-11

前/次のレコード: 前または次の録画イベントに移動します。

早送り/巻戻し: 通常の操作以外にも、これらのボタンをクリックするとファイル内の進行速度 - 早送りまたは巻戻し - の速度が変更されます。また、速度は各ボタン右側にある小さい上向き矢印をクリックして直接選択することもできます。1/4倍速から16倍速での早送り、8倍速、16倍速および32倍速での巻戻しを選択できます。現在の速度は再生バーの一番下中央に表示されます。

画面表示モード: コントロールバーと同様、再生で表示したいカメラのチャンネル数を選択します。各アイコンの右側にある上向き矢印をクリックすると、そのモードで表示するチャンネルを選択できます。録画されていないチャンネルは空白となります。

ズーム: 単一画面表示モードで利用可能。デジタル処理でディスプレイの選択範囲を拡大します。このツールを選択し、画面をクリックして移動させると配信映像の一部を拡大して表示します。拡大した範囲内をクリックして移動させると、映像の別のエリアへ移動できます。右クリックで標準の表示モードに戻ります。

色彩: 任意のチャンネルの輝度、色相、彩度およびコントラストを調節します。この設定は本体で表示中の画面のみに反映されます。録画内容は変更されません。

再生進捗バー: 映像再生中、[再生進捗バー]とシークバーが表示されます。マウスでシークバーを動かすと、映像を別のシーンに移動することができます。最初にチャンネルをクリックし、シークバーを別のシーンに移動させることで、1つのビデオ内の別の時間帯に移動することができます。他のチャンネルは通常通り進みます。

トリム: このツールを使用することで、映像全体を保存せずに、録画映像の1シーンのみを保存することができます。

シーンを選択する場合は、再生進捗バーを映像の記録したい時間の直前まで動かし、再生を開始します。保存したいシーンの開始点に到達したら、[トリム] ボタンをクリックしてクリップの開始を設定します。終了点を選択するまでは、ボタンアイコンは反転し、待機中であることを示します。終了点に到達したらもう一度ボタンをクリックして編集を完了します。**再生進捗バー**の下に開始時刻と終了時刻が表示されます。



図3-12

バックアップ: 映像クリップが作成されると、[バックアップ]ボタンが白に変わります。これは、監視デジタルレコーダーの前面にあるUSBポートからUSBメモリに直接保存できることを表します。[バックアップ]ボタンをクリックする前にUSBメモリを接続しなければなりません。

[バックアップ] ボタンをクリックすると、**[バックアップ画面]** が開きます また、ファイルと接続しているストレージメディアの詳細も表示されます。複数のドライブを接続している場合 (ESATA、USB CD/DVDバーナーまたは他の外部メディアを含む)、**[ストレージメディア]** (記録装置) プルダウンメニューから希望する保存先を選択できます。

ファイルを保存するために十分な空き容量がない場合は、**[ディスクのクリーンアップ]**を選択すると、ディスクからすべてのファイルを削除することができます。映像クリップの保存形式を選択します。「.DVR」形式は、ドライブの2番目のフォルダに含まれる専用の再生プレイヤーが必要になります。「.AVI」形式は、ほとんどのWindowsまたはMacコンピュータに搭載されている標準メディア再生プレイヤーに対応しています。「.AVI」形式を選択した場合、**[バックアッププレイヤー]** ボックスの選択を外しておく必要があります。

[スタート] をクリックするとダウンロードを開始し、下に表示される進行状況バーからファイルの転送状況を確認することができます。

バックアップファイルに関する詳細は、**第5章**を参照してください。



図3-13

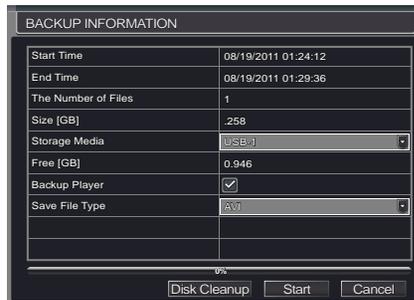


図3-14



重要! 映像と同時に音声を録音する場合には、音声を保存するため、必ず「.DVR」形式を選択しなければなりません。音声を保持したまま、「.AVI」形式へファイルを変換するプレイヤープログラムをダウンロードするには**[デスクトッププレイヤー]**の隣にあるボックスを必ず選択してください。

メインメニューの設定

4.1 基本設定

本章では、監視デジタルレコーダーの初期設定について説明します。より高度な機能の設定は後の章で詳しく説明していきます。システムの操作にはマウス、リモコンおよび監視デジタルレコーダー前面のボタンを使用することができますが、ここでは便宜上、マウスを使用した場合の操作について説明します。P.T.Z.カメラおよびアラームについての詳細は、それぞれの章「**第7章**および「**第8章**」に記載されています。

メニューナビゲーション

ユーザーインターフェイス内の操作はポイント・アンド・クリックで行うことができます。指定されたメニュー内のアイコンをダブルクリックするとメニューまたはサブメニューが開きます。[メインメニュー] は本体のすべての設定と機能のスタート地点です。コントロールバーの左の**メニューアイコン**を選択するか、本体またはリモコンの**[メニュー]** ボタンをクリックすると、**[メインメニュー]** が開きます。

メインメニュー



図4-1

アイコンをクリックすると関連メニューが開きます。



図4-2

設定

[設定] メニューからアイコンをクリックして**[基本]** メニューを選択します。



図4-3



注! 設定を変更したら、必ず**[適用]** をクリックし、現在の設定を保存してから**[終了]** をクリックしてウィンドウを閉じてください。**[適用]**を行わない場合、変更された内容が全て失われます。**[終了]**またはウィンドウ右上の**[X]**をクリックすると、変更を保存せずにウィンドウを閉じることができますが、その際、変更を保存するかどうかを尋ねるポップアップウィンドウが表示されます。**[OK]** をクリックして変更を保存するか、**[キャンセル]** で保存せずに続行します。**[初期値]** ボタンを選択すると、設定を工場出荷時の設定に復元できます。

基本メニュー

[システム]、[日付と時刻]、[サマータイム (DST)] の3つのタブで構成されています。最初のタブでは、システムの日付や時刻、その他の基本的な設定を行うことができます。

[システム] タブ

以下の設定をメニューで変更できます。

デバイス名: モバイル端末、インターネットブラウザまたはCMSソフトウェア経由で監視デジタルレコーダーに遠隔からアクセスする際に表示されます。デバイスに名前を付けると、複数の本体を遠隔から監視する際、デバイスを認識する際に役立ちます。

デバイスID: 複数のシステムを使用している場合、このデバイスに数値 ID を指定することができます。

ビデオフォーマット: NTSC (北米) または PAL (欧州) 標準のいずれかを選択します。

パスワードチェック: この機能を有効化すると、ユーザーは設定を行う際、名前とパスワードを入力する必要があります。

時間を表示する: ライブ映像の画面上に時間を表示します。

最大ネットワークユーザー数: ネットワーク接続の最大数を設定します (最大10人)。

VGA出力: お使いのモニターに最適な構成を選択します。オプション: VGA800x600、VGA1024x768 (デフォルト)、VGA1280x1024およびCVBS。注: VGAはVGAモニター用、CVBSはBNC/RCAアダプタを使用したTVモニターへの接続用です。VGAとCVBSを切り替えるとメニュー出力モードが変わります。出力モードを変更する際にはモニターが正しく選択されていることを確認してください。

言語: メニューの言語を選択します。なお、この変更を適用するには本体を再起動する必要があります。

ログアウトまでの時間設定: 操作がない状態が一定時間続くと、ユーザーは自動的にログアウトされます。30秒、1分、3分、5分、またはログアウトしないよう設定できます。

ログアウト時に映像を表示しない: このボックスのチェックが外れていると、モニターはライブ映像を表示しません。

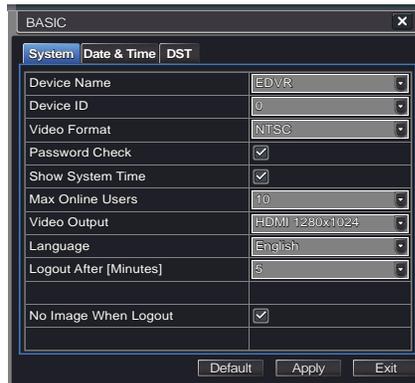


図4-4

[日付と時刻] タブ

このタブでは、監視デジタルレコーダーの日付と時刻、時間の形式および関連する設定を行います。



重要! 録画された映像の整合性を維持するため、他のメニューの変更する前に本体の正しい日付と時刻の設定をしてください。

録画映像の整合性を維持するため (特に証拠として使用する場合)、録画を開始する前に正しい日付と時刻を設定する必要があります。これら時刻等の設定を最初に行い、本取扱説明書を先へ進めてください。なお、重要な映像を録画した後日付や時刻を変更すると、ファイルが失われる可能性があります。

このタブ内のオプションは一目で分かるようにデザインされています。お住まいの地域の「タイムゾーン (時間帯)」が分からない場合、お使いのコンピュータの日付と時刻設定を確認、または「タイムゾーン」をインターネットで検索するとすぐに入手することができます。

NTPサーバー: ネットワーク・タイム・プロトコルは、選択したサーバーとの同期を定期的に行うことで、お使いのシステムの時間を最新の状態に保つことができます。この機能を使用するには、本体がインターネットに接続されていなければなりません。詳細については「遠隔監視用ガイド」を参照してください。

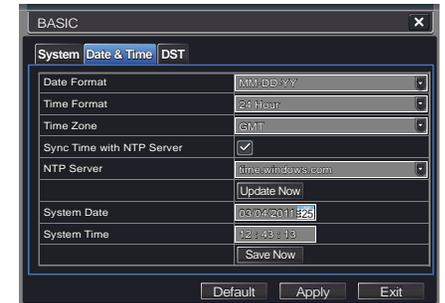


図4-5

[サマータイム (DST)] タブ

この設定を使用すると、サマータイムによる時刻の変更を調節することができます。なお、この機能を使用するには、システムがインターネットに接続されている必要があります。本書の作成時点において、北米のほとんどのエリアではサマータイムは3月の第2日曜日に始まり、11月の最初の日曜日に終了します。いずれも午前2時に変更が適用されます。本体のサマータイム時刻を自動切り替えに設定することで、手動での切り替えにより発生する録画映像の損失を防ぐことができます。

[サマータイム] の項目を選択することにより、本体は自動的に時刻を切り替えます。開始および終了期間は、プルダウンオプションで選択し、時刻を手動で入力して設定する必要があります。この方法の場合、[週] のオプションを選択しておく必要があります。

お住まいの地域でサマータイムの切り替えが特定の日付に行われる場合は [日付] のオプションを選択し、必要な情報を入力してください。

[適用] をクリックして設定を保存し、[終了] をクリックしてメニューを終了してください。

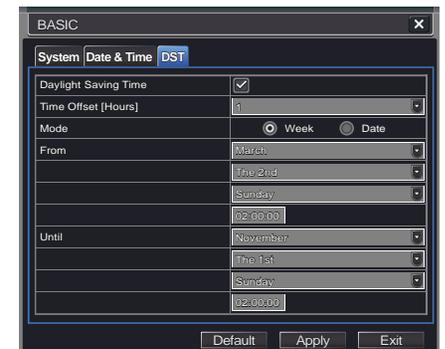


図4-6



重要! 言語またはビデオ形式を変更した後は、再起動する必要があります。

4.2 ライブ設定

ライブ設定は、[ライブ]、[主モニター]、[スポット]、[マスク]の4つのサブメニューから構成されています。

[ライブ]タブ

このタブでは、カメラの名称設定や、画面の色、輝度、色相、彩度およびコントラストを調節し映像を最適化することができます。

各カメラの項目を選択し、それぞれのカメラに名称を付けることができます。仮想キーボードが表示され、文字(大文字/小文字)、数字および記号を入力できます。[ENTER]を押すと名称が保存され、[ライブ]メニューに戻ります。[ESCAPE]を押すと保存せずにキーボードを終了します。

チェックボックスを使用して、画面上にカメラの名称や録画状態の表示を有効/無効にすることができます(セクション3.3を参照)。

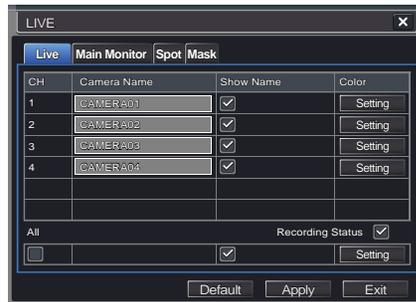


図4-7

各チャンネルの色の設定を個別に設定することができます。各カメラの [設定] ボタンをクリックして、各画面の色彩、色相、輝度およびコントラストを調節ができます。この設定を行う前に [すべて] のボタンをクリックすると、全てのカメラを同時に設定します。コントロールバーの [色彩] ボタンをクリックしてもこのウィンドウが表示されます。



図4-8

[主モニター]タブ

このタブでは、ディスプレイの設定を行います。

[分割モード] では、画面上に一度に表示する映像を、単一表示、2x2、2x3、3x3、4x4の種類から選択できます(モデルによって異なります)。また、どのチャンネルを表示するかも選択できます。

カメラチャンネルをグループに分け、グループの間で循環表示させることができます。また、任意で指定したチャンネルを複数のグループに表示させることができます。

自動循環時間: 次のグループに移動する前に1つのグループを表示する時間の間隔です。

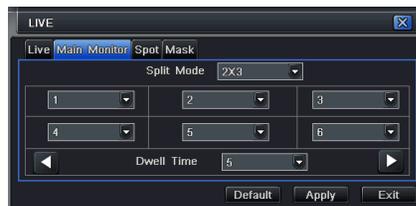


図4-9

[スポット]タブ

この設定を行うことにより、指定された映像を監視デジタルレコーダー経由で離れた場所に設置されている補助モニターに表示することが可能になります。例: 本体が設置されている部屋から離れた別の部屋など。この補助モニターからはメニュー操作を行うことができません。



図4-10

この補助モニターの画面には一度に1つのカメラチャンネルしか表示することができません。数個のチャンネルまたは、1つのチャンネルを「グループ」として設定することが可能です。1つのチャンネルを複数の「グループ」に設定することができます。「グループ」内にてチャンネルの表示される順序および循環時間を指定できます。右と左矢印を使用して「グループ」の切り替えができます。

[マスク]タブ

マスク機能では、各カメラの画面上で特定の範囲を選択し、隠すことができます。この機能は他のユーザーへ映像を配信する際に視聴範囲を制限したい場合、またはプライバシーを保護する際に使用します。

指定したカメラの [設定] ボタンをクリックすると、その映像にマスクが適用されます。



図4-11

映像内の最大3ヶ所にマスクをかけることができます。範囲をカバーするにはクリック・アンド・ドラッグ操作を行います。マスクを削除する場合は、ダブルクリックで消すことができます。



図4-12

右クリックで画面を終了することにより、マスクは保存されます。

チャンネルに指定されたマスクはライブ映像や録画された映像に表示されます。



注! デュアルモニターを搭載したパソコンで遠隔監視を行う場合、ディスプレイは主モニターを使用する必要があります。

4.3 録画の設定

QT4シリーズ・監視デジタルレコーダーはCIF形式でリアルタイムに録画するよう、1秒あたり30フレームで設定されています。モデルによっては、1つ以上のチャンネルをリアルタイムでより高い解像度で録画することができ、また、より低いフレームレートを使用することにより、すべてのチャンネルをD1形式で保存することもできます。QT5シリーズ・監視デジタルレコーダーは、QT454とともに、高解像度のD1形式ですべてのチャンネルをリアルタイムで録画できるよう設定されています。QT2124はCIF形式でのみ録画可能です。[有効]、[録画ビットレート]、[時間]、[スタンプ]、[録画自動上書き]の5つのオプションから構成されています。

[有効]タブ

監視デジタルレコーダーへ録画する一部またはすべてのカメラを選択します。モデルによっては、最大16台のカメラで映像と音声を録画するように設定できます。この機能を使用するには、マイクが搭載されたカメラ、またはカメラと同じ場所に別途でマイクを設置する必要があります。各列の下にある[すべて]ボックスを選択すると、各個カメラの設定に関係なく、すべてのカメラを選択することができます。

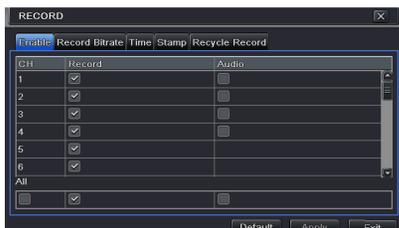


図4-13

[録画ビットレート]タブ

設定されたい解像度、画質、エンコーディング、映像配信の画質および最大ビットレートを設定します。カメラの個別設定だけでなく、ウィンドウの一番下の[すべて]機能を使用して全体設定を行うことも可能です。

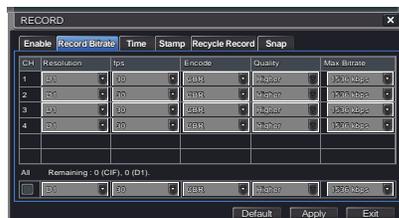


図4-14



注! 各カメラの解像度とフレームレートは、個別に設定することができますが、本監視デジタルレコーダーは他のカメラの設定に基づいて該当のカメラで使用可能なフレームレートを制限する場合があります。

パラメータ	オプション	意味
解像度	D1, CIF, 1080P	D1 = フルTV解像度、CIF = 1/2 D1。D1のハードディスク使用量はCIFよりも大きくなります。 1080P = フルHD解像度。SDI 監視デジタルレコーダーでのみ利用可能なオプションです。7FPSで録画します。(以下を参照)
FPS	1-30	1秒当たりのフレーム数。フレーム数が多くなると映像の動きが滑らかになりますが、ハードディスクの使用容量は大きくなります。
エンコード	VBR, CBR	可変ビットレート対固定ビットレート。可変ビットレートを使用すると動きのあるビデオの画質は良くなりますが、録画された動画のファイルサイズは大きくなります。
品質	最低 - 最高	可変ビットレート選択時にのみ利用可能です。画質を上げると、より多くの容量が必要となります。固定ビットレートの初期設定は高品質です。
最大ビットレート	256~2084kbps	可変ビットレートエンコーディング選択時に各カメラで録画される最大ビットレートを設定します。

[時間]タブ

動作検知または警報指定の前後に監視デジタルレコーダーがイベントを録画する時間の長さ、および個々の記録映像の保存期間を設定できます。

警報前録画時間[秒]: 録画に含める動作検知、またはセンサーが感知した出来事に対し、どれぐらい前の時間を録画に含めるか設定します。

警報後録画時間: 出来事の終了後に追加される時間の長さ(10~60秒)を設定します。

有効期限: 録画イベントをハードディスクに保存し、上書きを許可しない期間(最大60日間)を設定します(以下の「録画自動上書き」を参照)。



図4-15

[すべて]を選択してから、1つのチャンネルを設定することですべてのチャンネルに同じ設定を適用することができます

[スタンプ]タブ

IDと日付スタンプを表示するカメラを指定でき、画面のどこにスタンプを表示するかを選択できます。

カメラ名称、日付と時刻スタンプを画面上のお好みの位置にマウスでドラッグし、設置させることができます。これは個別または全体に適用できます。下記に「適用前」および「適用後」の例が表示されています。

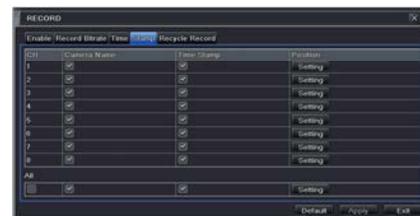


図4-16



図4-17

[スナップ]タブ

このタブでは、コントロールバーにある[スナップショット]ボタンを押した際に撮影する静止画像の枚数、画質および撮影間隔を設定できます。

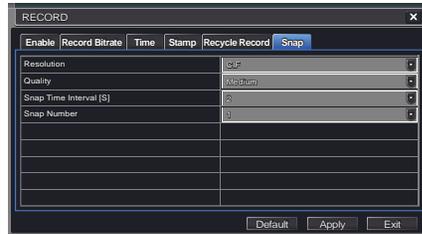


図4-18

[録画自動上書き]タブ

初期値として選択されています。録画自動上書き機能を使用することで、ハードディスクの容量が一杯になった際、古い映像を上書きし、録画を続けることができます。この設定を行わない場合、ハードディスクの空き容量がなくなると監視デジタルレコーダーは録画を停止します。

4.4 スケジュールの設定

お買い上げになった監視デジタルレコーダーは動作を検出すると録画を開始するよう初期設定がされています。この設定をそのまま使用する場合に変更する必要はありません。なお、予約、動作検知およびその他のセンサー入力に基づいて特定の時刻に録画するよう各チャンネルを設定することもできます。本項目は、[予約]、[動作検知]、[センサー]の3つのタブから構成されています。

[予約]タブ

自動録画の予約は2つのうちいずれかの方法で設定できます。

1. ウィンドウ右上の鉛筆ツールを使用して、特定の日付や個別の時刻を選択する。選択範囲をブロック単位で取り消す場合は、隣の消しゴムツールを使用します。鉛筆または消しゴムツールを外す場合は、いずれかをダブルクリックします。この設定はコピーして、任意のカメラチャンネル、すべてのチャンネル、または別の日に適用させることもできます。

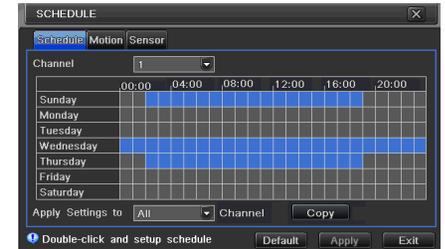


図4-19

2. 日付の隣の欄をダブルクリックすることでまとまった時刻の録画設定をすることもできます。複数の予約を作成し、最小分単位での開始時刻と停止時刻を保存することができます。これらを複数の日や複数のカメラに適用することもできます。

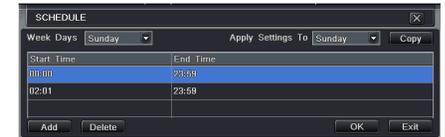


図4-20

1つのモードで行った予約を別のモードで変更することもできます。

[動作検知]タブ

選択した時間に動作が検出されると、監視デジタルレコーダーは録画を開始します。設定方法は上記の[予約]と同様です。初期値は[24時間/週7日]で設定されています。

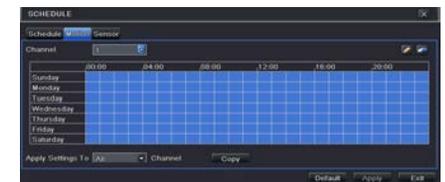


図4-21

[センサー]タブ

監視デジタルレコーダーに接続されている他のセンサーからの入力に基づいた録画を有効にします。動作検知と同様に、初期設定はいつでも録画するよう予約設定がされています。[予約]で説明されたと同様の方法で設定ができます。

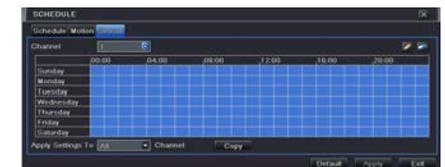


図4-22

4.5 ネットワークの設定

[ネットワーク設定] この設定画面では、ネットワーク環境における監視デジタルレコーダーの操作される方法の設定を行います。この項目では本体の設定方法の概要のほか、インターネットを介して、ネットワーク上の別のパソコンから、またはモバイル端末から遠隔監視できるように設定します。この設定画面で利用可能な機能や設定の詳細な説明については、本体に付属のCDまたは当社ウェブサイト (<http://qsee-jp.custhelp.com>) からダウンロード可能な「**遠隔監視用ガイド**」に記載されています。この設定画面の4つのタブは **[ネットワーク]**、**[サブストリーム]**、**[電子メール]**、**[その他の設定]** で構成されています。ネットワーク上の別のパソコンからのみ本体の監視を行う場合は、最初の3つのタブの使用のみで監視することができます。

なお、設定前に本体がネットワークルーターに接続されており、ルーターの電源が入っていることを必ずご確認ください。

この設定画面には監視デジタルレコーダーのローカルネットワーク上の情報と、インターネットアドレスが表示されており、これらを使用することでネットワーク上の監視デジタルレコーダーに接続することができます。「遠隔監視用ガイド」の説明にもあるように、本体が接続されているローカルネットワーク内にある無線インターネットまたはインターネットから本体へ接続する際には、ローカルネットワークアドレスを使用します。このネットワークエリアの外から接続する場合はインターネットアドレス(下記を参照)またはダイナミックDNSアドレスを設定し、使用します。



重要! 2008年以降に市販されているほとんどのルーターにはユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ (UPnP) 機能が搭載されており、監視デジタルレコーダーがネットワークに自動的に接続します。ネットワーク設定を変更する前に、「**ネットワーククイックスタートガイドポスター**」または「**遠隔監視用ガイド**」をご確認ください。

[ネットワーク] タブ

HTTP ポート - 監視デジタルレコーダーがルーターとの通信に使用するポートです。インターネットから本体に遠隔から接続する際には、Internet Explorer ウィンドウのアドレスバーにネットワークのグローバルIPアドレス(次のステップにて取得)を入力する必要があります。
例: <http://88.116.0.25/>

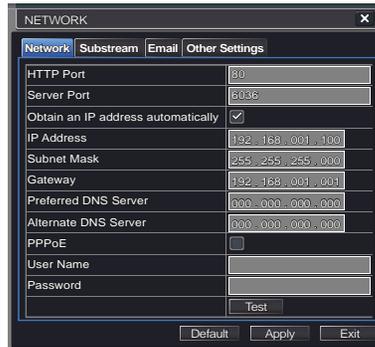


図4-23



注! HTTPポートの初期値は「85」です。ポート「85」がネットワーク上の他の機器によって既に使用されている場合は、別のポート番号を選択する必要があります。同じ範囲(81~89)の別の番号を選択してください。この場合、Internet Explorerのアドレスバーに入力する際グローバルIPアドレスにポート番号を追加する必要があります。ポート番号が「82」となった場合の例:
<http://88.116.0.25:82>

IPアドレスを自動で取得する - この項目を選択すると、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイIPをルーターから自動で取得します。

PPPoE - 監視デジタルレコーダーがモデム経由でインターネットに直接接続できるPPPoE (Point-to-Point Protocol over Ethernet) を有効化します。ルーターの代わりにモデムを接続している場合以外は、この機能を使用しないでください。アカウント情報(ユーザー名とパスワードを含む)についてはご利用のインターネットプロバイダーにお問い合わせください。[テスト] ボタンを押すと情報が正しいかどうかを検証します。

ネットワーク設定の定義と説明:

パラメータ	定義
HTTPポート	遠隔から監視デジタルレコーダーへ接続するためのネットワークポート番号。ポートの初期値は「85」です。
サーバーポート	データのポート番号。ポートの初期値は「6036」です。
固定IP	
IPアドレス	ネットワークの監視デジタルレコーダーのIPアドレス
サブネット・マスク	サーバーのサブネット・マスク
ゲートウェイ	ルーターのゲートウェイ
DNSサーバー	ドメイン名システム (DNS) サーバーのアドレス
PPPoE	
ユーザー名	ブロードバンド・アカウントのユーザー名
パスワード	ブロードバンド・アカウントのパスワード

[サブストリーム] タブ

サブストリーム(補助配信)とは、遠隔視聴機に送信されるデータのことです。帯域幅の制限から、これらのデータ配信は一般的に、監視デジタルレコーダー本体に送信されるデータよりもファイルサイズが小さくなります。これらのデータはハードディスクに送信されるメインストリーム(主配信)と並行して実行されますが、両機能への影響はありません。

サブストリーム設定は「**セクション 4.3**」の **[録画]**

ビットレート タブの優先配信設定と同じ手順で実行できます。処理能力の問題により、一部の設定は灰色に表示され、変更できません。各項目について、下記をご参照ください。

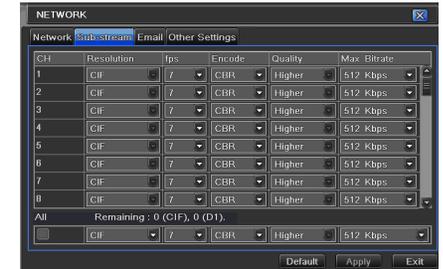


図4-24

パラメータ	オプション	意味
解像度	CIF	CIF = 352 x 240 画素 サブストリームではこの解像度のみが使用可能です。
FPS	1-30	1秒当たりのフレーム数。フレーム数が多くなると画像がよりスムーズになりますが、帯域幅によって利用できない場合があります。
エンコード	VBR, CBR	可変ビットレート (VBR) と固定ビットレート (CBR)。VBRを使用すると動きのある映像の画質は良くなりますが、ファイルサイズは大きくなります。
品質	最低 - 最高	VBR選択時にのみ利用可能です。画質を上げると、より多くの容量が必要となります。CBRの初期の設定は高品質です。
最大ビットレート	256 ~2084kbps	VBR選択時に各カメラが録画を行う最大ビットレートを設定します。

[電子メール] タブ

このタブを使用すると、メール通知の送信方法を設定できます。最大3つのアドレスにメール通知を同時に送信することができます。



注意! 設定内容によっては、多数の通知メールが送信される可能性があります。このため、監視デジタルレコーダーからのアラート通知送信専用のメールアドレスを設定することをお勧めします。独自のメールシステム(会社メールサーバーなど)または、無料メールプロバイダーを使用することができます。ただし、無料のメールサービスの多くはメール送信量に制限があるため、大容量のGoogle Gmailサービスの使用をお勧めします。Gmailでは通知メールを複数のアカウントの送信や通知の管理などが容易であり、送信量を超えるのを防ぎます。

独自のメールシステムがない場合は、設定を行う前に監視デジタルレコーダーが通知の送信に使用できるよう無料のメールサービスのアカウントを取得してください。

以下ではGmail例に説明します。設定はGmailアカウントへログインした際、[オプション]の下に表示されます。

各項目をクリックすると仮想キーボードが表示され、文字を入力することができます。仮想キーボードは大文字と小文字、数字や記号の入力に対応しています。[ENTER]をクリックすると入力を確定し、[ESC]を押すと変更内容を適用せずに設定項目を終了します。

SMTPサーバー: smtp.gmail.com

ポート: 465 (Gmailの標準ポート - これ以外は異なる場合があります)

SSLチェック: Gmailではこれを選択する必要があります。他のISPでは異なる場合があります。

送信アドレス: 新しいアドレスを入力します。このアドレスは監視デジタルレコーダーからの通知メールに表示されます。

パスワード: このアカウント用に作成したパスワードを入力します。大文字と小文字を区別しますので注意してください。

受信アドレス: 通知を受信するメールアドレスを最大3つ設定することができます。監視デジタルレコーダーからの通知に使用するメールアドレス以外のアドレスを使用してください。

詳細設定

添付画像数: 通知メールには最大3件の画像を添付できます。

スナップの時間間隔: 画像の間隔は1秒ごとから5秒ごとまでの範囲で設定可能です。

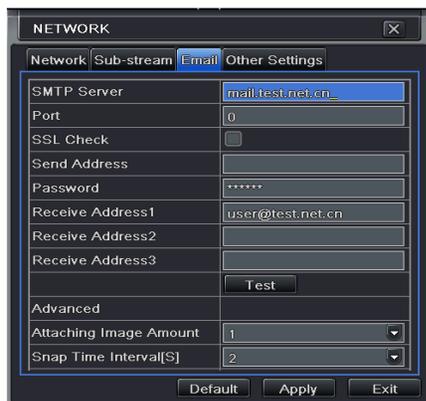


図4-25

その他の設定

各インターネットプロバイダは利用者に対し、個別の動的IPアドレスを提供します。プロバイダの中には、これらの番号を随時変更する場合があります。この変更が行われると、モバイル端末や他のネットワーク外端末から監視デジタルレコーダーへ遠隔から接続できなくなってしまう。これを防ぐため、ダイナミックドメインシステム (DDNS) の使用をお勧めします。DDNSではIPアドレスとリンクさせることのできるドメイン名が提供され、IPアドレスが変更されると、自動的に遠隔からの接続をネットワークへ転送します。

Q-SeeではMyQ-See.comから無料でDDNSを提供しています。続行する前にドメイン名、ユーザー名およびパスワードを作成してください。DynDNS.comでも同様の無料サービスを提供しています。詳細については、「[遠隔監視用ガイド](#)」を参照してください。

DDNSの項目を選択し、DDNSを有効化します。次に、各項目に作成したユーザー名、ドメイン名およびパスワードを入力します。ここでは、DDNSがIPアドレスの変更を確認する間隔(日数)を選択することもできます。間隔の範囲は30分ごとから1日1回となります。

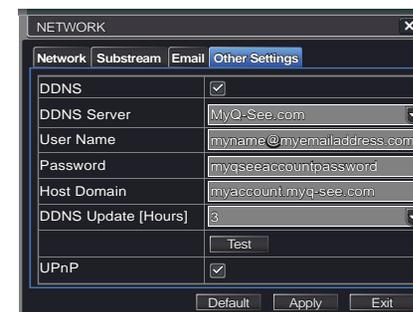


図4-26

これで、インターネットブラウザにドメイン名を入力し、監視デジタルレコーダーへ遠隔から接続ができるようになりました。

4.6 ユーザー管理

ユーザーアカウントとパスワード

各ユーザーにアカウントを設定すると監視デジタルレコーダーの、特定の操作ができるようになります。管理者アカウントは監視デジタルレコーダーで作成済みです。なお、追加のユーザーアカウントを作成することができますが、管理者アカウントは1つのみとなります。

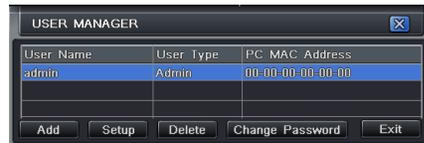


図4-27

ユーザーを追加するには、[追加] を選択して、[ユーザーを追加] を開きます。このウィンドウには[一般] と [権限] の2つのタブがあります。

[一般] タブ

ユーザーの名前やパスワードを入力し、ユーザーのタイプ (標準/上級) を選択します。

このユーザーのみがネットワーク上の特定のパソコンから監視デジタルレコーダーへ接続できるようにしたい場合は、[MACアドレスのロック] オプションを選択し、そのパソコンのMACアドレスを入力してください。



図4-28

[権限] タブ

このタブでは、このユーザーに、本体および本体の機能の一部または全部に対する接続する権利を与えることができます。

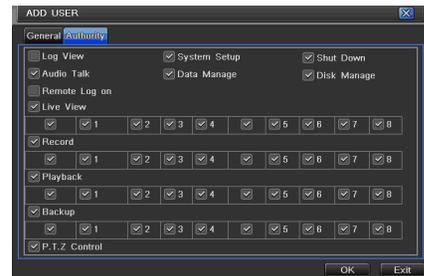


図4-29

[設定] - ユーザー名を変更し、MACアドレスのロックなどを行います。パスワードの変更を除き、Adminアカウントの変更を行うことはできません。

[削除] - システムからユーザーを削除します

[パスワード変更] ボタン - ユーザーのパスワードを変更します。管理者パスワードは変更できません。初期設定のパスワードは**123456**です。

パスワードを変更するには、[パスワード変更]をクリックしてポップアップウィンドウに使用中のパスワードを、新しいパスワードを[新しいパスワード]と[パスワードの確認]の欄に入力してから、[OK]をクリックして保存し、[終了]を押してウィンドウを閉じます。

4.7 詳細

このコマンドセットでは、ユーザーは次の3つのサブメニューからすべての設定を削除したり、監視デジタルレコーダーとの間でデータファイルをインポート/エクスポートしたり、本体へ遠隔から接続できるユーザーの選択を行えます。サブメニューは、[リセット]、[インポート/エクスポート]、[ブラック/ホワイトリスト] 3つです。

[リセット]

この選択肢を選択すると、すべての設定を削除して本体を再起動するかどうか確認する警告が表示されます。[OK] を選択すると続行し、[キャンセル] を選択すると変更を行わずに終了します。

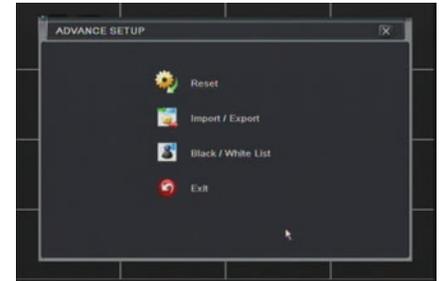


図4-30

[インポート/エクスポート]

このインターフェイスを使用して、バックアップ機能を使用してUSBメモリーまたは外付けハードディスクに移送するデータを選択します。また、特定のデータファイルをUSBメモリーまたは外付けハードディスク内から移動することや監視デジタルレコーダー本体に録画することもできます。

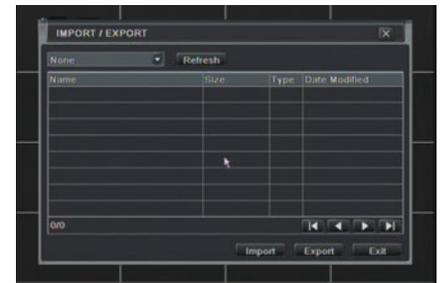


図4-31

[ブロック/許可リスト]

管理者が他の操作権限を持つユーザーに対し、監視デジタルレコーダーへ接続する権利の制限を設定することができます。



図4-32

[ブロックリスト] は特定のIPアドレスを持つ他のパソコンからの接続を否定する際に使用します。

[許可リスト] は、選択したIPアドレス分節からのユーザーの接続を許可する際に使用します。

例: IPアドレス分節が196.168.000.002 ~ 196.168.000.004の範囲の内のパソコンからの監視デジタルレコーダーへの接続をブロックしたい場合、[ブロック] を選択し、最初の分節を [開始IP] の欄に、最後の分節を [終了セグメント] の欄に入力してください。[適用] をクリックする前に分節を追加して設定を保存し、終了してください。

4.8 ファイルの検索、再生および管理

監視デジタルレコーダー内の録画ファイルの再生や外付けハードディスクへ録画ファイルをバックアップします。

このセクションに表示されるサブメニューは、**[時間検索]**、**[イベント検索]**、**[ファイル管理]**、**[画像]**の4つです。



図4-33



注意! このウィンドウでは、画面解像度がVGA 800*600の場合、時間検索タブに**[非表示]**と表示されます。このボタンをクリックすると必要に応じてインターフェイス全体を展開/最小化します。

[時間検索]

日付や時刻の範囲内でイベントを検索します。

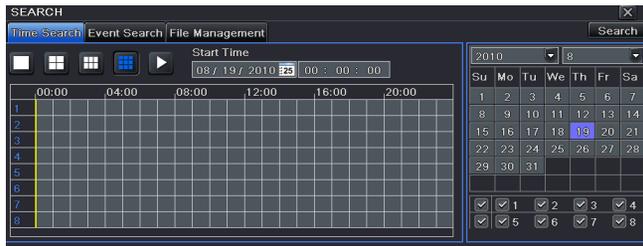


図4-34

検索したいチャンネルと画面表示モードを選択します。**[開始時刻]** ウィンドウの**[カレンダー]** アイコンでは開始時刻を選択できます。日付が選択されている場合、その日に録画データがあることを表します。

枠の左側の数字の縦列は、利用可能なチャンネルを表します。水平方向の見出しはその日の時間帯を表します。

視聴を開始する時刻を選択するには、開始時刻ウィンドウへ開始時刻を入力するか、時間枠をクリックして黄色いラインをおよその開始時刻まで動かしてください。

[再生] を押すと選択した時刻から再生を開始します。また、再生ツールバーを使用して再生を微調整することもできます。

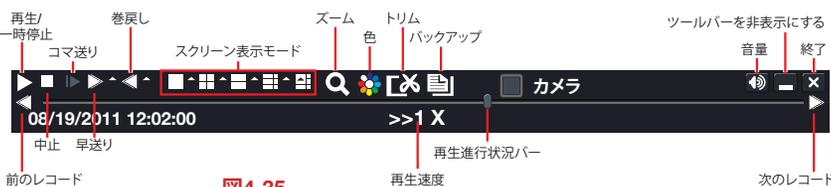


図4-35

[イベント検索]

このタブを選択すると録画されたイベントの一覧が表示されます。監視デジタルレコーダーは動作を検出すると録画を開始するように初期設定がされています。イベントの表示を動作、センサーまたはその両方のいずれかで作動させるかを選択することができます。これらのファイルはイベントとして保存されます。

検索したい日付を選択し、**[検索]** をクリックしてください。記録済みイベントの一覧が表示されます。

チャンネル名を選択し、再生したいイベントファイルをダブルクリックしてください。

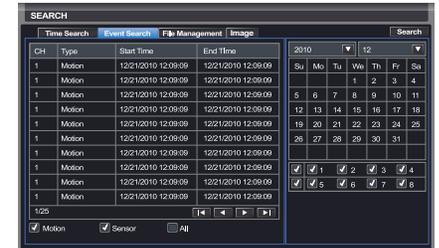


図4-36

[ファイル管理]

このタブでは、イベントをロック/ロック解除、または録画したイベントをハードディスクから削除することができます。

ウィンドウの右上の**[検索]** をクリックすると、表示するイベント一覧が表示されます。希望する日付やチャンネルの動画のみを検索結果に反映させることもできます。

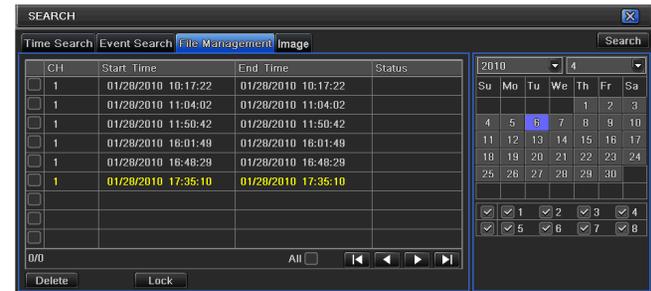


図4-37

[ロック] – ファイルを選択してから**[ロック]** をクリックすると、イベントが書き込みまたは削除されるのを防ぎます。(ハードディスク全体がフォーマットされた場合を除く)

[ロック解除] – ファイル保護を解除し、イベントの録画を通常通り削除または書き込みできるようになります。

[削除] – イベントがロックされていない場合、監視デジタルレコーダーから選択したイベントを削除します。



注意! ステータスに**[書き込み]**と表示されている場合、ファイルがあるハードディスク上のファイルは書き込み中です。「書き込み中」という表示が消えるまでファイルを削除できません。

【画像】

このタブは [イベント検索] タブと同様に機能し、[コントロールバー] の [スナップショット] をクリックしたときに取りこんだ画像の検索や表示ができます。これらの画像は、映像ファイルと同じように監視デジタルレコーダーのハードディスクに保存されます。

検索したい日付と、開始時刻および終了時刻を選択します。また、どのチャンネルを検索に含めるかも選択できます。ウィンドウの右上の [検索] をクリックすると、観覧可能な画像の一覧が表示されます。

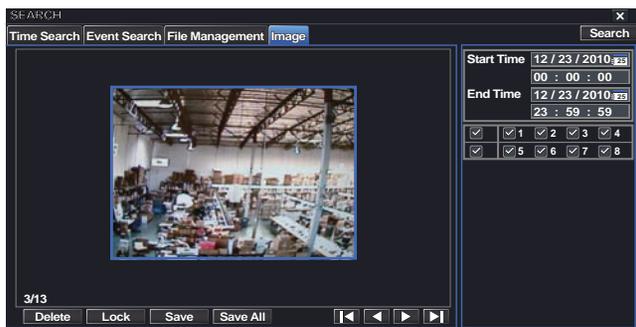


図4-38

検索が完了したら、観覧可能な画像数と、最初の静止画像が表示されます。このタブの一番下のボタンを使用すると画像内を移動したり、監視デジタルレコーダー以外に保存することができます。

[削除] – ハードディスクから不要な画像を削除します。

[ロック] – ファイルが削除されるのを防ぎます。ファイルがロックされると、このボタンは [アンロック] とされます。

[保存/すべて保存] – これらのボタンを使用するとグループ内の個別/すべての画像を監視デジタルレコーダーの前面のUSBポートに挿入されている外部のハードディスクまたは、USBメモリーに保存することができます。

矢印ボタン – グループ内の最初、最後、前または次の画像へ移動します。

バックアップ

第5章

本監視デジタルレコーダーは、前面パネルのUSBポート経由でのUSBメモリー、USBハードディスクおよびUSB DVDライターへのファイルのバックアップに対応しています。また、遠隔からのバックアップはインターネット経由で実行できます。「遠隔監視用ガイド」の「2.4 遠隔バックアップ」を参照してください。



注意! データのバックアップに使用する外付けUSBハードディスクはFAT32形式でなければなりません。市販されているハードディスクは、本監視デジタルレコーダーで使用する前に一度フォーマットを行う必要があります。

USBメモリーをFAT32形式でフォーマットする

USBメモリーをFAT32形式でフォーマットするにはパソコンにUSBメモリーを挿入してください。(Windows XP以降) [マイコンピュータ] から接続されたメモリーを検索し、右クリックでオプション一覧から [フォーマット] を選択してください。[FAT32] を選択し、[クイックフォーマット] ボックスを選択し、[スタート] をクリックしてください。

32GB以上のUSBメモリーの場合は、CNET.comから利用可能なFAT32フォーマットユーティリティを使用してください。

ファイルをバックアップする

[メインメニュー] で [バックアップ] をクリックすると [バックアップ] 設定のウィンドウが表示されます。

バックアップするファイルの検索手順は、前の章で説明した再生するファイルの検索手順と同様に行います。

バックアップしたい開始時刻と終了時刻、およびチャンネルを設定してください。[検索] をクリックすると [データバックアップ] に検索結果が表示されます。

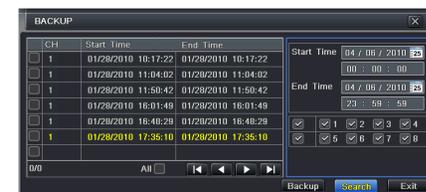


図5-1

特定のイベントまたは [すべて] を選択してください。[バックアップ] をクリックすると、[バックアップウィンドウ] が開きます。

このウィンドウにはファイル数、開始時刻と終了時刻、ファイルの合計サイズおよび受信するハードディスクの空き容量が表示されます。[ディスクのクリーンアップ] を使用するとハードディスク内のコンテンツを削除し、容量を空けることができます。録画する端末の種類や、作成するファイルの種類を選択できます。

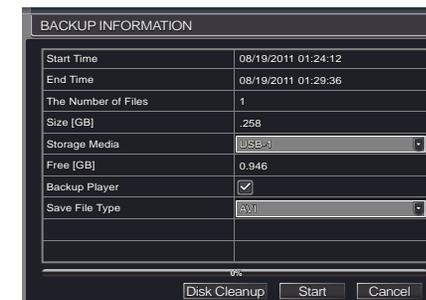


図5-2

【ファイルの種類を保存】: 「.DVR」と「.AVI」から選択します。「.DVR」は映像を独自の仕様で保存し、「.AVI」はほとんどのメディアプレイヤーで再生可能な標準の.aviファイルを作成します。「.DVR」形式を選択した場合、[デスクトッププレイヤー] オプションを選択する必要があります(図5-2を参照)。これにより、同じハードディスク内の「映像再生」という別のフォルダ内に独立した再生プログラムが保存されます。

[スタート] をクリックするとバックアップを開始し、進行状況バーに進行状況が表示されます。

パソコンで動画ファイルを再生する

【Windows】 - Windows Media Player、QuickTime、DIVXplayerなどのプレイヤーでAVI形式のファイルを他のメディアファイルと同じ様に再生することができます。上記を行うには、場合によってはK-Liteコーデックをダウンロードし、インストールする必要があります。

Superplay.msiプログラムはWindows専用アプリケーションで、バックアッププレイヤーの選択時に動画ファイルと同じハードディスクに保存されます。通常どおりソフトを起動したら、[オープンパス] を選択して動画ファイルが保存されているフォルダを開き、再生したいファイルを選択してください。

【アップル Macintosh】 - 本取扱説明書の制作時点では、遠隔視聴ソフトを経由してファイルをパソコンに保存するには、遠隔からのバックアップ機能を使用する必要があります。この機能の手順については、「遠隔監視用ガイド」の「セクション2.4」を参照してください。

Macコンピュータでの再生用に動画ファイルをバックアップする際には、必ず、AVI形式を選択してください。QuickTimeプレイヤーまたはその他のメディアプレイヤーで動画ファイルを開くことができます。

重要な考慮事項

音声について

バックアップしたいファイルが音声付きの動画ファイルの場合、必ず、「.DVR」形式を選択する必要があります。また、[デスクトッププレイヤー] の隣のボックスが選択されていることを確認してください。誰かと動画を共有する場合(法的処置など)、プレイヤーで動画再生時に音声も聞くことができます。また、プレイヤーを使用してファイルをより一般的な「.AVI」形式に変換したり、音声トラックを映像に含めることもできます。Macintoshコンピュータ経由でバックアップされたファイルには音声は含まれませんのでご注意ください。

ファイルのロックについて

動画ファイルを証拠として使用するような状況では、「セクション 4.8 ファイルの検索、再生および管理」で説明したように、[ファイルのロック] を行うことをお勧めします。この操作は直接監視デジタルレコーダーで行うことも、モバイル端末またはパソコン経由で遠隔から行うことも可能です。この操作を監視デジタルレコーダーと離れた場所から行う方法については、「遠隔監視用ガイド」を参照してください。このファイルをロックすると、ハードディスク全体を再フォーマットする場合を除き、削除/上書きすることはできません。

6.1 情報



図6-1

このウィンドウでは、[システム]、[イベント]、[ログ]、[ネットワーク]、[オンラインユーザー] の5つのメニューから、本体の状態、ネットワーク接続、オンラインユーザー、履歴、またはイベントなどを監視することができます。

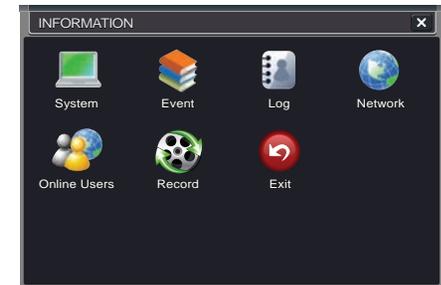


図6-2

システム情報

端末の名前およびID、本体のハードウェア、MCU (MicroControllerユニット)、カーネル(該当する場合) およびファームウェアのバージョンが表示されます。

SYSTEM	
Device Name	EDVR
Device ID	0
Hardware Version	302.0.X-
MCU Version	
Kernel Version	
Firmware Version	3.1.0.D
Launch Date	2010-07-31 11:07:00

図6-3

イベント情報

記録されたイベントの一覧を表示します。この一覧は日付、時刻、イベントの種類およびチャンネルで検索できます。



図6-4

ログ情報

本体内のユーザーの活動を表示します。

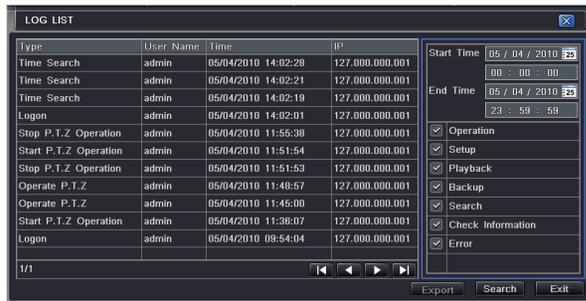


図6-5

この記録は操作、日付や時刻などで検索できます。また、バックアップ機能を使用して外付けハードディスクに移動することもできます。

ネットワーク情報

ネットワーク上の監視デジタルレコーダーの状態や割り当てられているポート、その他のネットワーク設定が表示されます。

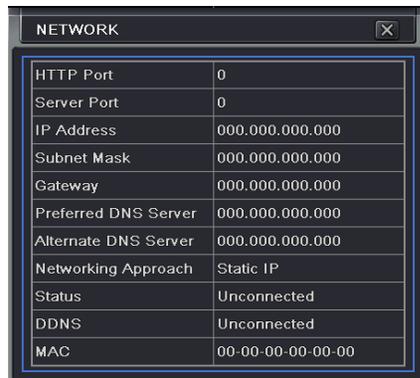


図6-6

オンラインユーザー情報

現在接続されているユーザーの情報が表示されます。



図6-7

[更新] – オンラインユーザーの一覧を更新します。

[切断] – 管理者は、監視デジタルレコーダーへの。接続を切断したいユーザーを選択することができます。切断後5分ほどで選択されたユーザーのパソコンから本体に接続することができなくなります。

レコード情報

カメラの録画解像度、録画速度、カメラの操作モードなどに関する情報が表示されます。一番下にはハードディスクの使用容量 (%) を表すバーが表示されます。

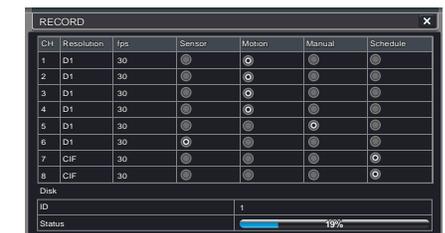


図6-8

6.2 手動警報

手動警報の設定が表示されます。警報の接続および設定については第8章を参照してください。



図6-9

6.3 ディスク管理

このウィンドウにはハードディスクまたは監視デジタルレコーダー内に取り付けられているハードディスクの情報(サイズ、空き容量や状態)が表示されます。



図6-10

ハードディスクを読み取り専用を設定し、現在保存されているデータを維持することもできます。なお、この場合、録画機能は無効になります。

新しいハードディスクを取り付けハードディスクの容量を増やしたい場合は、第9章を参照)録画を開始する前に新しいハードディスクをフォーマットする必要があります。なお、ドロップダウンメニューの[フォーマット]使用中のハードディスクを再フォーマットすることもできます。



警告! ハードディスクを再フォーマットすると、ロックされた動画を含めハードディスク内に保存されているすべての録画ファイルが削除されます。

[更新] をクリックするとハードディスクの情報を更新します。

6.4 アップデート

このウィンドウには前面USBポートでUSBメモリーに読み込まれるファームウェアのアップデートが表示されます。

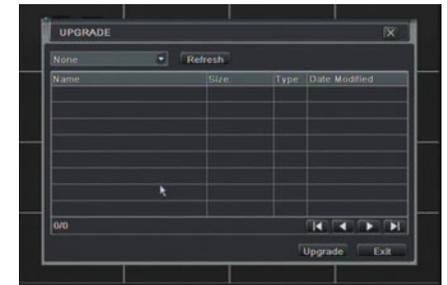


図6-11

ファームウェアのアップデートはQ-See (www.qsee-jp.custhelp.com/) からご使用中のモデルに合ったものをダウンロードすることができます。なお、ファームウェアは機能向上のための常に修正が行われ、一部の機能が削除される場合があります。ファームウェアのアップデートを行う際は、問題の修正時または機能が追加された場合のみ行うようにしてください。

監視デジタルレコーダーのファームウェアのアップデートを行う場合は、ダウンロードを行ったパソコンから未使用のUSBメモリーにアップデートされたファームウェアを保存し、その後USBポートから本体に転送してください。



注意! MacintoshコンピューターはFAT32形式の読み取り/書き込みに対応していますが、USBメモリーをFAT32形式に再フォーマットすることはできません。Windows/パソコンを使用してUSBメモリーをFAT32形式に再フォーマットし、ファームウェアの更新プログラムをパソコンにダウンロードすることをお勧めします。バージョン3.1.71からは、遠隔監視ソフトのアップデート機能(「遠隔監視用ガイド」のセクション2.5を参照)を使用することでUSBメモリーがなくてもアップデートが可能となります。



警告! ファームウェアの更新が正しく行わないまたは、間違った更新プログラムを使用すると監視デジタルレコーダーのチップが損傷し、使用できなくなる可能性があります。更新は監視デジタルレコーダーの問題を解決または機能を追加する際に行われます。使用中の本体に問題がない場合または更新によって追加される機能を使用しない場合は、アップデートを行わないでください。

6.5 ログオフ

複数のユーザーがいる場合や、監視デジタルレコーダーへの直接接続が制限されていない場合、監視デジタルレコーダーからログアウトすることをお勧めします。[ログオフ]をクリックすると確認のメッセージが表示されます。

ログオフ後、ユーザーは [メニュー] をクリックし、ユーザー名とパスワードを入力して再びログインすることができます。

6.6 シャットダウン

[シャットダウン]では、監視デジタルレコーダーのシステムを終了させます。ファームウェアやハードディスクをシャットダウンしますが、監視デジタルレコーダー本体の電源は切りません。



警告! ファームウェアやハードディスクの損傷を防ぐため、本体の電源コードを抜く前に [シャットダウン] メニューから監視デジタルレコーダーのシステムをシャットダウンしてください。

PAN/TILT/ZOOM (パン/チルト/ズームカメラ) 第7章

7.1 PTZカメラを接続する

QTシリーズ監視デジタルレコーダーは全モデル、パン-チルト-ズーム(上下左右拡大機能)または、PTZカメラの複数使用に対応しています。PTZカメラは通常のカメラと同じポートを使用して本体に接続しますが、操作用のコードはRS485接続子に接続する必要があります。以下の図7-1はRS485接続子の標準的な例を表していますが、実際の接続子とは異なる場合があります。お使いのモデルの接続子の位置を調べるには、「第2章 接続と操作」を確認してください。

RS485は単方向プロトコルを使用してカメラへ指令を送信しますが、本体からのデータは受信しません。映像はビデオケーブルを通じて他のデータへ提供されます。

監視デジタルレコーダーは各チャンネルでRS485を無効にするよう初期設定がされています。PTZカメラを使用する前にはPTZ設定を有効にする必要があります。本体はPelco-DやPelco-Pを含む最も一般的な26のプロトコルに対応しています。

PTZカメラを接続する際には、以下を考慮してください：

- 本監視デジタルレコーダーの485ポートを別の端末にある85ポートに並列接続することはできません。
- カメラのAラインとBラインの間の電圧は5V未満にする必要があります。

ステップ1. PTZカメラからのデータケーブルを図7-1で囲まれているポートに設定しなければなりません。このポートには複数のPTZカメラを接続できますが、その場合は、拡張ポートが必要になります。

ステップ2. ケーブルのもう一方をカメラの接続子の適切なピンに接続してください。

ステップ3. 他のカメラと同じように、カメラのビデオケーブルと電源コードを接続してください。

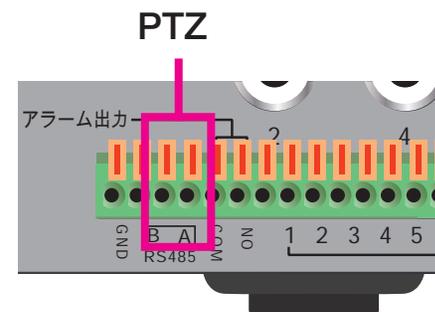


図7-1

7.2 パン/チルト/ズーム (PTZ) 設定

オプションのパン-チルト-ズームカメラを接続している場合、このウィンドウの [シリアルポート] や [詳細設定] から操作の設定を行います。

[シリアルポート] タブ

プロトコルやボーレートの詳細については、お使いのPTZカメラの取扱説明書をご確認ください。監視デジタルレコーダーはお使いのカメラより多くの機能 (プロトコルや事前設定プログラムの数など) を搭載している場合がございます。

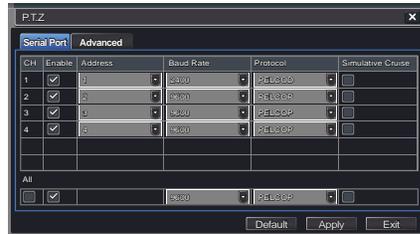


図7-2

カメラの設定は個別または、[すべて] から全カメラの設定を行うことができます。

互換性クルーズは、対応されていないプログラムを使用しているPTZカメラで、一部の機能を使用できるようにするための機能です。

PTZの定義と説明:

パラメータ	設定	意味
アドレス	1-255	PTZカメラのアドレス
ボーレート (通信速度)	110-21600	データが送信される速度
プロトコル		カメラが使用する通信プロトコル。対応しているプロトコル: NULL、PELCOP、PELCOD、LILIN、MINKING、NEON、STAR、VIDO、DSCP、VISCA、SAMSUNG、RM110、HY

[詳細設定] タブ

[プリセット]、[クルーズ] または [トラック] 列の [設定] を選択し、プリセットプログラムに従うように設定または、巡航や追跡動作を設定することができます。

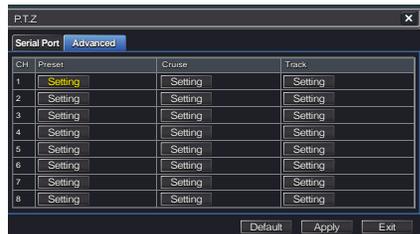


図7-3

[プリセット]

[プリセット] 列の [設定] をクリックすると別のウィンドウが表示されます。



図7-4

次に、[設定] を選択するとカメラの映像とコントロールパネルが表示され、カメラの動作を設定できます。



図7-5

ドームの回転方向 (垂直、水平および対角線上) および速度を設定できます。同様に、レンズズーム、ピントおよび虹彩 (光量) も設定できます。このアクションセットに割り当てたい値を選択し、[保存] をクリックしてプリセットを保存します。「-」をクリックするか、画面を右クリックするとコントロールパネルを非表示にできます。もう一度画面を右クリックするとコントロールパネルが非表示となります。[X] を押すとコントロールパネルが閉じられます。

[巡航]

[巡航] 列の [設定] をクリックすると [巡航] ウィンドウが表示されます。



図7-6

[追加] を選択するか既存のラインをダブルクリックして変更すると、[巡航事前設定] ウィンドウが開きます。

[削除] で選択した巡航ルート削除します。
[すべてクリア] ですべての巡航ルート削除します。

画面右側のアイコンは各巡航設定の設定に使用します。

[プレビュー] - 希望した結果が得られることを確認するため、巡航のプレビューを行います。

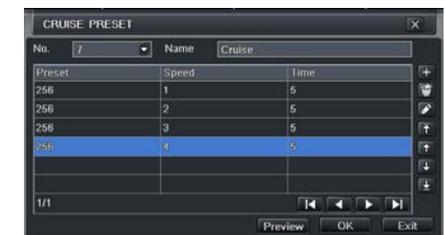


図7-7

名前	記号	動作
追加		ウィンドウを開き、ユーザーは速度と新しい事前設定ポイントの時刻を設定します。
削除		事前設定ポイントを削除します。
修正		選択した事前設定ポイントの設定ウィンドウを開き、設定を変更することができます。
矢印		巡航の順序の設定位置を変更できます。
		事前設定ポイントをリストの一番下に動かします。
		事前設定ポイントをリストの1つ上に動かします。
		事前設定ポイントをリストの1つ下に動かします。
		事前設定ポイントを順序の一番下に動かします。

【追跡】

カメラの追跡手順をプログラムします。[追跡] をクリックすると、カメラのライブ映像とコントロールパネルが表示されます。



図7-8

ユーザーはドームの回転方向と速度、ズーム、ピントおよび絞りを設定できます。

[記録開始] – 本体はPTZコントロールパネルで実行した動作順序の記録を開始します。もう一度クリックすると記録を停止します。

[追跡開始] – 記録した追跡された順序で再生します。このボタンをもう一度クリックすると再生を停止します。

アラーム

多くのQTシリーズ監視デジタルレコーダーには外部アラーム（入力/出力）用の接続子があります。「第2章 接続と操作」でお使いのモデルにこの機能が搭載されているか、また接続子ブロックの位置を確認してください。図8-1の・警報接続子ブロックは標準的な位置を示していますが、実際とは異なる場合があります。

監視デジタルレコーダーはイベントを検出すると、別のパソコンを使用しているユーザーに通知するか、監視サービスへ通知を送信します。同時に、監視デジタルレコーダーは動作検知器、煙検知器、またはその他の警報からの信号を受信し、その入力設定に基づいて録画を開始することができます。

監視デジタルレコーダーの警報機能を正しく動作させるためには、各アラームの取扱説明書を確認しながら設定を行ってください。

8.1 警報入力

警報を取り付ける際には次の条件を満たす必要があります。

1. 警報入力はアースに接続しなければなりません。
2. 警報入力には接地信号が必要です。
3. 監視デジタルレコーダーを警報入力経由で別の機器（別の監視デジタルレコーダーを含む）に接続する際には、これらを分配させるためにリレーを使用する必要があります。

アラーム入力

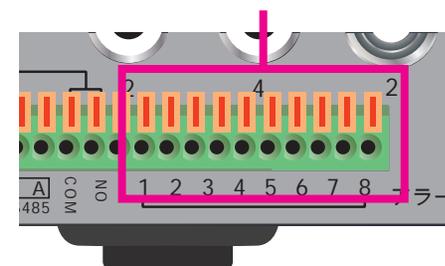


図8-1

パラメータ	アース接続アラーム
	アース線
警報入力	1、2、…、8 が低電圧で有効となります。
1-NO C 2-NO C	NOアクティブ化出力が2つあります。
CTRL 12V	電源出力を制御します。 端末の電源を切り、警報を取り消す必要があります。

配線を正しく行うため、付属の回路図(図8-2)および各警報の取扱説明書をご確認ください。

- 常警報入力の場合、警報の(+)供給を自動的に開始させたいカメラの警報ポートに繋ぎ、警報側のアースを警報ブロックのアースに繋がります。

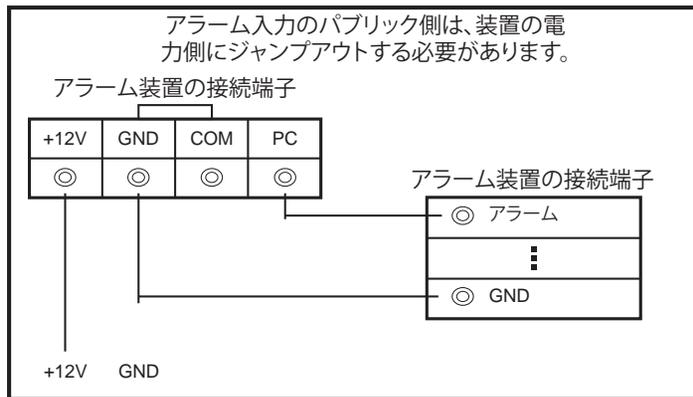


図8-2

8.2 警報出力

警報出力ポートをより負荷の高い電源(1A以上)に直接接続することはできません。高電流によってリレーが損傷する可能性があります。接触器を使用して警報入力と負荷の高い電源の間に接触器を使用して接続を確立してください。

- 警報出力の場合、警報の(+)供給をNOポートに繋ぎ、警報側のアースを警報ブロックのCOMポートに繋がります。

リレーの仕様

モデル:	JRC-27F	
接触面の材質	銀	
定格(抵抗負荷)	定格スイッチ容量	30VDC 2A、125VAC 1A
	最大スイッチ電力	125VA 160W
	最大スイッチ電圧	250VAC、220VDC
	最大スイッチ電流	1A
絶縁	同じ極性の接触器の間	1000VAC 1分
	異なる極性の接触器の間	1000VAC 1分
	接触器および巻線の間	1000VAC 1分
サージ電圧	同じ極性の接触器の間	1500V (10×160us)
開いている時間の長さ	最大3ミリ秒	
閉じている時間の長さ	最大3ミリ秒	
持続時間	機械的	50×106回(3Hz)
	電氣的	200×103回(0.5Hz)
温度	-40°C ~+70°C (-40°F ~ +158°F)	

8.3 警報の設定

警報設定では、他の遠隔センサー（接続されている赤外線動作検知または接触警報など）からの入力に基づいて録画を開始することができます。

サブメニューは、[センサー]、[動作検知]、[映像信号未入力]、[その他]、[警報出力]の5つです。

[センサー]

このウィンドウでは、監視デジタルレコーダーが録画を開始するオプションの外部センサーを設定できます。このウィンドウのタブは、[基本]、[警報の処理]、[予約]の3つです。

[基本] タブ

接続されているセンサーからの入力を有効化します。設置された場所をわかりやすくするため、センサーに名前をつけて識別することもできます。

アラームがNO（常時開）であるかNC（常時閉）であるかによって警報の種類を設定します。詳細についてはお使いの警報の取扱説明書をご確認ください。

警報は個別に設定[すべて]から一括で設定することもできます。



図8-3

[Alarm Handling (警報の処理)] タブ

有効化された警報からの入力の処理方法を設定します。各センサー入力は、アクションの順序を個別に起動するよう設定または、[すべて]から一括で同じ設定を行うこともできます。

[保持時間]: 連続した警報イベントの間隔を設定します。この時間内に警報が作動した場合、同じイベントであると見なし、監視デジタルレコーダーはそのまま録画を継続します。

[トリガー]: 警報で有効化された際に監視デジタルレコーダーが実行する動作です。[設定]を選択すると新しいウィンドウが開き、[警報]、[録画する]、[PTZへ]の3つのタブが表示されます。

[警報]ではブザーを鳴らすか、どのカメラをフルスクリーンモードで表示するか（該当する場合）、メールを送信するか、または[警報出力]ポートから信号を送信するかなどの設定ができます。

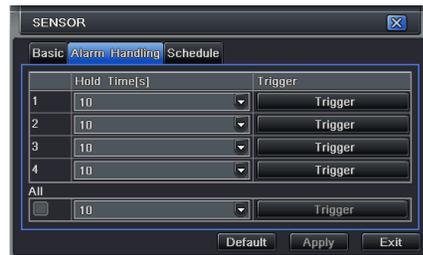


図8-4



図8-5

[録画する]では、録画を開始したいカメラを選択することができます。個別や設置した範囲内のカメラのみ、あるいは全てのカメラの録画を開始させることもできます。

[PTZへ]は選択したPTZカメラで事前設定、巡航および追跡機能を有効にします。PTZカメラのモデルによっては、最大128の事前設定アクションを作動させることができます。詳細についてはお使いのカメラの取扱説明書をご確認ください。

[予約] タブ

初期設定では常時有効の状態になっていますが、**セクション 4.4**の[予約]と同じ方法で予約を変更できます。

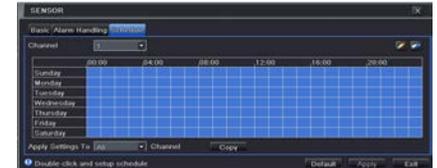


図8-6

動作

[動作] タブ

上記の[警報]機能と同様、保持時間を作動させることができます。

動作検知で録画を開始するカメラを選択します。継続時間（動作が停止した後も録画を継続する時間の長さ）を決定します。

[トリガー]設定では、動作検知を有効化したカメラで動作が検知された際に、複数のチャンネルで録画を行うよう設定することができます。

例: カメラ1が動作を検知したら、カメラ2とカメラ3も録画を開始するように作動させることができます。

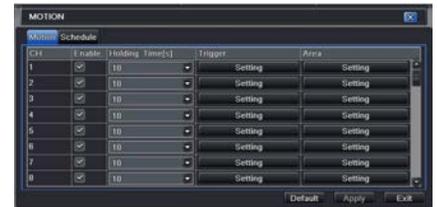


図8-7

その他にも、[選択]をクリックしてそれぞれのカメラの[エリア]項目を選択し、表示する項目内の特定の範囲の感度を設定することができます。

青色の枠を画面の希望するセクションに適用することで、特定の範囲の感度を上げることができます。青色の枠は星印のボタンをクリックすることで、画面全体が選択できるようになり、選択範囲全体の感度を上げることができます。[ゴミ箱]で選択した枠を完全に削除します。画面上でマウスをクリック・アンド・ドラッグで選択した範囲内に枠を書き込むことや削除することができます。



図8-8

感度は色と光レベルによって変化します。設置場所に応じて値をちょうせい調節してください。初期値は「4」です。「8」にすると感度が最も高く、「1」が最低となります。

画面を右クリックすると画面下のコントロールメニューを表示/非表示します。

人や物を映像の枠範囲内で移動させ、設定を試してください。監視デジタルレコーダーが枠範囲内で動作を検知すると、画面に人の形をした黄色の図形が表示されます。画面上に旗や木がある場合、その範囲の枠を事前に削除しておくことで誤って警報が作動するのを防ぐことができます。[ディスク]をクリックして設定を保存してから、[X]をクリックして設定手順を終了します。



図8-9

[スケジュール]タブ

初期設定では常時有効化の状態になっていますが、セクション4.4の [スケジュール] と同じ方法で調節可能です。

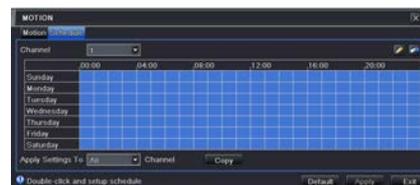


図8-10

映像信号未入力

1台のカメラからの信号が失われた際に、他のカメラの録画を始動または、他の端末を作動させることができます。

[警報の処理] セクションの [センサー] メニューの [トリガー] タブと同じように、ビデオ入力が失われた場合に実行したいイベントを選択できます。警報とPTZイベントはどちらも、上記の [センサー] メニューと同様にスケジュール設定できます。



図8-11

その他の警報

このメニューではハードディスクの空き容量がない、ネットワークのIPの競合または切断などの通知を送信するよう設定できます。

応答や、ハードディスクの空き容量がどのくらいになったら通知を送信するのかというしきい値を設定できます。



図8-12

警報出力

このウィンドウで警報の処理方法や転送方法を設定します。監視デジタルレコーダー背面の [警報出力] に接続されている端末を制御します。[警報出力]、[予約]、[ブザー] の3つのタブがあります。

[警報出力]タブ

リレー警報出力の名前と保持時間を設定できます。保持時間とは連続して警報を作動させる間隔です。この間隔内に複数のイベントが発生しても、アラームはもう一度鳴りません。



図8-13

[予約]タブ

初期設定では常時有効化の状態になっていますが、ユーザー独自の要件に合わせて、セクション4.4の [予約] と同じ方法で変更できます。

[ブザー]タブ

[警報出力] の保持時間とともに、内部ブザーを有効化にして、保持時間を設定できます。

ハードディスク・ドライブ

第9章

お買い上げいただいた監視デジタルレコーダーは3.5インチSATA (Serial Advanced Technology Attachment) ハードディスク・ドライブ用標準デスクトップを使用しており、最大2TB (テラバイト) のハードディスクに対応しています。これらのハードディスクは業界最新の標準で、コンピュータ部品を取り扱う小売店でご購入いただけます。監視デジタルレコーダーのご購入場所によっては、ハードディスクが既に内蔵されている場合があります。将来的にハードディスクの増設や交換を希望されることを考え、本監視デジタルレコーダーはユーザーがハードディスクを容易に増設または交換ができるように設計されています。5400RPM ハードディスクもご使用いただけますが、最適な性能のためには、7200RPM ハードディスクの使用をお勧めします。

ユーザー自身で交換が行える部品はバッテリーとハードディスクのみです。なお、ハードディスクを設置または増設した場合でも、本体は保証の対象となります。ケース内の他の部品を損傷しないよう、慎重に作業を行ってください。ユーザー自身による、他の部品の損傷・損害については保証の対象外となります。



警告! 感電注意!

ケースを開く前に、必ず、すべての電源またはカメラと監視デジタルレコーダーをつなぐコードを抜いてください。監視デジタルレコーダーまたは監視デジタルレコーダーの内蔵部品が損傷の原因や、怪我をする恐れがあります。



9.1 設置/取り外し

静電気が発生しやすい状況では、内部の部品が損傷する恐れがあるため、ケースを開けないでください。

ハードディスクを初めて設置する場合と、古いハードディスクを新しいハードディスクと交換する場合は同様の手順で行います。

ステップ1. 監視デジタルレコーダーから電源コードやその他の接続ケーブルを外してください。

ネジを外す



図9-1

ステップ2. 監視デジタルレコーダーの側面および背面のネジ (数はモデルによって異なります) を取り外してください (図9-1を参照)。

ステップ3. ケースを後方にスライドさせて持ち上げ、取り外します。

ステップ3A. ハードディスクを取り外す場合、監視デジタルレコーダーの底または内部取り付けジャックのハードディスク取り付けネジを4本取り外す必要があります。

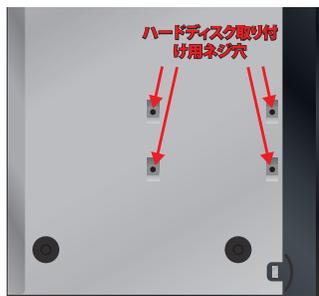


図9-2

ステップ4. 電源コードおよびデータコードを接続してください。しっかりと差し込み、かつピンに力をかけ過ぎないでください。ピンを傷つける恐れがあります。接続子は適切な位置で接続されるよう「固定」されています。

ステップ5. 4本のネジで、ハードディスクを監視デジタルレコーダーの基板上に取り付けます。

ステップ6. 監視デジタルレコーダーのカバーを交換し、固定してください。

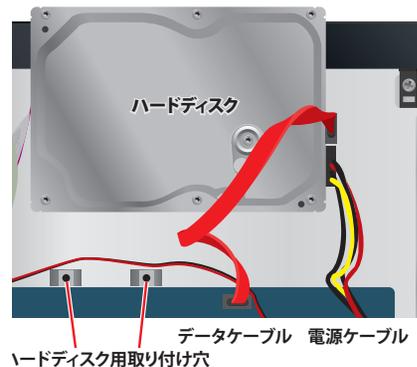


図9-3

9.2 ハードディスクの録画容量を計算する

ハードディスクのデータ容量は固定されていますが、録画できる動画の量は録画設定によって異なります。高品質の録画はハードディスクの消費容量が大きくなり、録画頻度が増えると、監視デジタルレコーダー内の容量が満杯になる速度も早くなります。

使用用途に最適な容量については、以下の表を参考にしながら、ハードディスクの必要な容量をお選びください。

ビデオ形式	解像度	フレームレート (FPS)	ビデオ品質	ビットレート (bps)	消費容量 (MB/時間)
NTSC/PAL	CIF	30/25	最高	1000k	465
			より高い	768k	297
			中	512k	230
			より低い	256k	115
			最低	128k	56
D1	30/25	最高	2M	912	
		より高い	1.5M	512	
		中	1M	468	
		より低い	768k	300	
		最低	512k	244	
D1	7.5/6	最高	500k	228	
		より高い	375k	128	
		中	250k	117	
		より低い	192k	75	
		最低	128k	61	
1080P	30/25	最高	48M	5400	
		より高い	36M	4052	
		中	28M	3152	
		より低い	16M	1800	
		最低	6M	676	
	7.5/6	最高	12M	1350	
		より高い	9M	1013	
		中	7M	788	
		より低い	4M	450	
		最低	1.5M	169	

必要なディスク容量の計算式:

合計録画容量 = 1時間あたりの使用容量 (MB/時間) x 録画時間 (時間) x チャンネルの数

例: NTSC形式 (1秒あたり30フレーム)、CIF解像度、映像画質が最低、合計16チャンネルを使い、1ヶ月間継続して録画を行いたい場合は、次のような計算になります

56 (MB/時間) x 24 (時間/日) x 30 (日間) x 16 (チャンネル) = 645.120MB または 650GB

750GB SATA/ハードディスクを設置すると、これらの設定を使用して1か月間の継続録画に十分な空き容量を確保することができます。

付属資料

A.1 故障かな?と思ったら

- 電源をつなげても監視デジタルレコーダーが起動しません。
 - 電源アダプタが損傷している、または電力が充分でない可能性があります。アダプタを交換してください。
 - コンセントまたは接続されているサージ・プロテクタ (耐雷変圧器) から十分な電力を得られていない可能性があります。
 - 監視デジタルレコーダーのシステムボードに問題がある可能性があります。
- 監視デジタルレコーダーの表示器が点灯していますが、出力はありません。
 - 電源アダプタが損傷している、または電力が充分でない可能性があります。アダプタを交換してください。
 - 監視デジタルレコーダーの動画形式がモニターと異なります。
 - 接続の問題の場合、ケーブルとモニターのポート、および監視デジタルレコーダーを確認してください。
- 監視デジタルレコーダーの一部またはすべてのチャンネルで映像が表示されません。
 - 接続の問題の場合、ケーブルとカメラのポート、および監視デジタルレコーダーを確認してください。
 - カメラの問題の場合、カメラをテレビまたは監視デジタルレコーダーの作動しているポートに直接接続し、カメラを確認してください。
 - 監視デジタルレコーダーの動画形式 (NTSC/PAL) がカメラと異なります。監視デジタルレコーダーの動画形式を変更してください。
- 監視デジタルレコーダーがハードディスクを認識しません。
 - 電源アダプタから十分な電力を得られていない、またはアダプタがコンセントから十分な電力を得られていません。
 - 接続の問題。ハードディスクの電力とデータケーブルを確認してください。
 - ハードディスクが損傷しています。交換してください。
- 録画できません。
 - ハードディスクがフォーマットされていません。最初に手動でフォーマット行ってください。
 - 録画機能が有効化されていない、または正しくセットアップされていません。「[セクション 4.3 録画の設定](#)」を参照してください。
 - ハードディスクの空き容量がないため、機能を有効にできません。[録画メニュー]の「[セクション 4.3 録画の設定](#)」と [録画自動上書き] タブを参照してください。
 - ハードディスクが損傷しています。交換してください。
- マウスが使用できません。
 - マウスを接続してから5分間待ち、再試行してください。
 - マウスがしっかりと接続されていません。何回か抜き差ししてください。
 - マウスとシステムに互換性がありません。別のマウスをお試しください。

7 監視デジタルレコーダーが起動し、「しばらくお待ちください」とずっと表示されたままになります。

a. 考えられる1つ目の理由：ハードディスクの電源コードおよび/あるいはデータケーブルがしっかりと接続されていません。

解決策：しっかりと接続されていることを確認してください。それでも作動しない場合、接続を抜いてからもう一度差し込んでください。

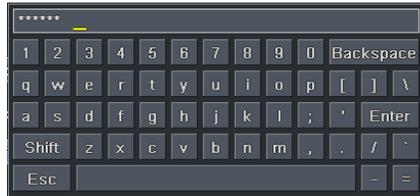
b. 考えられる2つ目の理由：本体にハードディスクの読み取りに関する問題が発生しています。

解決策：使用中のハードディスクをフォーマットするか、交換してください。

c. **解決策：**監視デジタルレコーダーを別のサージ・プロテクタ(耐雷変圧器)やコンセントに接続してください。

8. 文字や数字はどのようにして入力するのですか？

文字(パスワードなど)や数字を入力するには、テキストを入力するボックスをクリックすると、小さなキーボードが表示されます。入力する数字や文字を選択するか(初期値のパスワードは**123456**です)、前面パネルのデジタルキーまたはリモコンのデジタルキーを使用してください。



図A-1

9. 監視デジタルレコーダーでファームウェアをアップデートにはどうすればいいでしょうか？

Q-See Webサイト (www.qsee-jp.custhelp.com/) から新しいファームウェアをダウンロードし、USBメモリーにコピーしてください。次に、メニューの [Upgrade(アップグレード)] を選択してください。



警告！ アップデートプロセス中にシステムの電源を電源を切らないでください！
内蔵のチップが損傷し、監視デジタルレコーダーが起動できなくなる恐れがあります。

10. ディスプレイにライブ映像は表示できますがメニューを表示できません。どうすればメニューを表示できますか？

ESCキーを長押しし、ログインダイアログボックスが表示されるのを待ちます。

11. 監視デジタルレコーダーをBNCビデオ出力ポート経由でテレビに接続しましたが、画面には何も表示されません。どうすれば映像を表示できますか？

初期設定では監視デジタルレコーダーはVGAモニターを使用するよう設定されています。代わりにモニターを使用したい場合は前面パネルのESCボタンをビープ音が聞こえるまで長押ししてください。それでもディスプレイに表示されない場合、もう一度ESCボタンをビープ音が聞こえるまで長押しすると、ディスプレイが表示されるはずですが。

12. 遠隔から接続接続するために必要なパソコンにはどのくらいの機能が必要ですか？

コンポーネント	最低要件
CPU	Intel Celeron 2.4G以上
マザーボード	Intel 845以上
ハードディスク	80G以上
RAM	1GB以上
VGA	512MB Video RAM または NVIDIA GeForce MX440/FX5200 または ATIRADEON 7500/X300以上
OS	Windows XP(SP2以上) /VISTA/Win7/Win8
DIRECTX	9.0以上

13. 16チャンネルをフル仕様のメインストリームでリアルタイムに接続するためにはパソコンの設定は何でしょうか？

PCモジュール	パラメータ
CPU	Intel Core(TM)2 Duo CPU E4600以上
マザーボード	G41/P41チップ
HDD	80G以上
RAM	1GB以上
VGA	GMA3100/NVIDIA GeForce 8400または ATI RADEON HD3450以上、512MB Video RAM以上
OS	Windows XP(SP2以上) /VISTA/Win7/Win8
DIRECTX	9.0以上

14. VistaおよびWin7では、コーデックをインストールできない、またはコーデックがないというエラーメッセージが表示されます。

解決方法は2つあります。

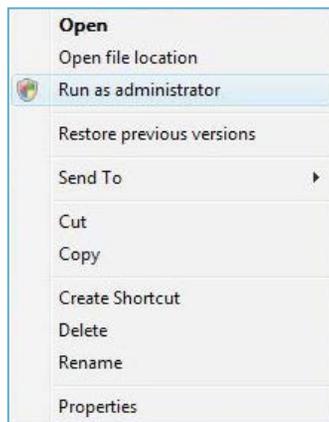
- a. Windowsで、[コントロールパネル]を開いて[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]、[ユーザーアカウント制御]を選択してください。



図A-2

[ユーザーアカウントをオン/オフにする]をクリックしてください。[ユーザーアカウント・コントロール(UAC)を使用してコンピューターを保護する]の隣のボックスのチェックマークを外してください。

- b. Internet Explorerブラウザウィンドウを右クリックしてください。[管理者として実行する]を選択してブラウザを起動してください。



図A-3

A.2 仕様

パラメータ	QT578		
圧縮	圧縮形式	標準H.264規格	
ビデオ	VIDEO IN (ビデオ入力)	複合1.0V p-p/75Ω、BNC x 8	
	Video Out (ビデオ出力)	複合1.0V p-p/75Ω、BNC x 1、VGA x 1、HDMI x 1	
	VGA解像度	1280x1024、1024x768、800x600、HDMI	
	録画解像度	NTSC: 352x240、704x480 PAL: 352x288、704x576	
	表示フレームレート (カメラあたり)	704x480、30FPS	
	録画フレームレート (カメラあたり)	NTSC: D1 30 FPS CIF 30FPS PAL: D1 25FPS CIF 25FPS	
オーディオ	オーディオ入力	-8dB~22k、RCA X4	
	オーディオ出力	-8dB~92dB、RCA X1	
警報	警報入力	NOまたはNC	8CH
	警報出力	1CH	
ストレージ	録画モード	手動/センサー/予約/動作検知	
	Multi-Screen (マルチスクリーン)	多重送信	
インターフェイス	ネットワークインターフェイス	RJ45 (LAN、インターネット)	
	通信インターフェイス	RS485、USB 2.0 x 2 (バックアップ用x1、USBマウス用x1)	
コントロール	PTZコントロール	有	
	リモコン	有	
ディスク情報	ディスクの種類	SATA x 1 (それぞれ最大2TB)	
その他の情報	電圧	12V3A	
	最適な動作温度	50°F ~ 104°F 10°C ~ 40°C 湿度10% ~ 90%	
	消費電力	20W	

Q-SEE製品保証

Q-Seeのすべての製品は購入日から12ヶ月間すべての製品を保証するサービス保証(条件付)の対象となっています。さらに、当社製品には購入日から1ヶ月間すべての製造不具合を対象とする無料交換保証が適用されます。ソフトウェアへは久アップデートサービスが提供されます。

免責:

以下の理由によって引き起こされた製品の不具合や操作の異常、または損害は当社の無料サービスの範囲の対象外となります。

1. 不適切な操作によって発生した機器の損傷
2. 設備の操作環境または条件が不適切(例:電力環境が不適切(過度・不十分)、極端な環境温度、湿度、雷および電圧の急激な変化)
3. 自然災害(地震や火災など)による損害
4. Q-Seeが承認していない業者がメンテナンスを行ったことによる設備の損傷
5. 製品が販売されてから12ヶ月以上が経過している。



simplicity - quality - technology



Digital Peripheral Solutions, Inc.
8015 E. Crystal Drive
Anaheim, CA 92807